

# 平成28年度 3 R 推進北海道大会

## 開催報告書(講演録)

- 主 催：環境省北海道地方環境事務所
- 共 催：農林水産省北海道農政事務所 / 北海道 / 札幌市
- 後 援：経済産業省北海道経済産業局 / 小樽市 / 帯広市
- 協 力：3R活動推進フォーラム / 北海道グリーン購入ネットワーク



開催概要	4
進行プログラム	5
全体写真	6～7
主催者挨拶	8
出展者PR①	9～12
ステージトークショー①	13～18
ステージアトラクション②	19
ステージトークショー②	20～25
出展者PR②	26～29
ステージトークショー③	30～34
ステージアトラクション③	35
閉会挨拶	36

## 開催概要

# 平成28年度3R推進北海道大会

さあしよう！3Rを意識した生活！

- 日 時： 平成28年 11月20日(日)10:00～17:00
- 主 催： 環境省北海道地方環境事務所
- 共 催： 農林水産省北海道農政事務所／北海道／札幌市
- 後 援： 経済産業省北海道経済産業局／小樽市／帯広市
- 特別協力： 一般社団法人自然環境文化推進機構
- 協 力： 3R活動推進フォーラム／北海道グリーン購入ネットワーク
- 会 場： ウイングベイ小樽 ネイチャー・チャンバー





## 進行プログラム

時間	プログラム	内容
10:00～	イベント開会 オープニングコメント	MCより開催内容アナウンス
11:30～ (25分)	<b>ステージアトラクション①</b> 浅沼 修氏	ヒーリングBGM演奏 インタビュー
12:00～ (1分) 12:00～12:05 (5分)	<b>オープニング</b> <b>主催挨拶</b> 環境省北海道地方環境事務所 所長 徳丸 久衛	MCよりステージ開会コメント 所長よりイベント趣旨説明含む ステージ開会挨拶
12:05～12:15 (10分) 12:15～12:25 (10分)	<b>出展PR①</b> 【NPOライフ 松永様】 【協栄産業(株)石寄様】	MC X 出展団体・企業 実施内容インタビュー
12:30～13:15 (45分) 講演30分+インタビュー15分	<b>3Rステージトークショー①</b> NPO日本渚の美術協会 会長 本間 清様	出演者による3R関連 講演・インタビュー (XMC)
13:30～ (25分)	<b>ステージアトラクション②</b> Under The Palms	ヒーリングBGM演奏 インタビュー
14:00～14:45 (45分) 講演30分+インタビュー15分	<b>3Rステージトークショー②</b> 京菓匠 笹屋伊織 (株)イオリ・コーポレーション 取締役社長 田丸 みゆき様	出演者による3R関連 講演・インタビュー (XMC)
15:00～15:10 (10分) 15:10～15:20 (10分)	<b>WS出展PR</b> 【ハンドメイド作家 Kao様】 【整理収納アドバイザー 佐藤真美】 【協栄産業(株)石寄様】	MC X 出展団体・企業 実施内容インタビュー
15:30～16:15 (45分) 講演30分+インタビュー15分	<b>3Rステージトークショー③</b> 整理収納アドバイザー 永井 友子様	出演者による3R関連 実践トーク・インタビュー (XMC)
16:30～ (25分)	<b>ステージアトラクション③</b> 浅沼 修氏	ヒーリングBGM演奏 インタビュー
16:55～17:00 (5分) 17:00～	<b>閉会挨拶</b> 環境省北海道地方環境事務所 課長 遊佐 秀憲 <b>クロージング</b>	課長よりイベント閉会挨拶 ステージ閉会挨拶 MCより閉会コメント

【主催者挨拶】 北海道地方環境事務所長 徳丸 久衛



【出店PR】

特定非営利活動法人札幌障害者活動支援センター 松永 邦子 氏  
協栄産業株式会社 石寄 洋樹 氏  
ハンドメイド作家 Kao 氏  
整理収納アドバイザー 佐藤 真美 氏



【ステージアトラクション】

浅沼 修 氏  
Under The Palms



【3Rステージトークショー】

NPO日本渚の美術協会 会長 本間 清 氏  
京菓匠 笹谷伊織 株式会社イオリ・コーポレーション 取締役社長 田丸 みゆき 氏  
整理収納アドバイザー 永井 友子 氏



【閉会挨拶】

北海道地方環境事務所 環境対策課長 遊佐 秀憲

司会進行(トークステージ・トークセッション時コーディネーター含) 高嶋伴子氏





## オープニング～主催挨拶

### 主催挨拶

環境省北海道地方環境事務所

所長 徳丸 久衛

(コーディネーター:高嶋 伴子氏)



**MC:** 皆様本日はウイングベイ小樽にお越し頂きまして誠にありがとうございます。本日はオープニングの10時から平成28年度3R推進北海道大会テーマは「さあ、しよう!3Rを意識した生活!」ということで、皆様にこのイベントご参加いただいております。10時からのオープンで、たくさんの体験イベントに皆さんもご参加いただきました。ぜひ、会場内のクイズラリーなどをお楽しみいただきながら、3Rを意識した生活を今日から皆様が実践できるような楽しいワクワクするワークショップなど、ご用意させていただきました。是非終了のお時間の夕方5時まで、どうぞお楽しみください。それでは、このステージの大会主催を代表しまして環境省北海道地方環境事務所所長徳丸久衛から皆様にご挨拶をさせていただきます。

**徳丸所長:** 皆さんこんにちは。私は環境省の北海道地方環境事務所の徳丸と申します。今日は、3R推進北海道大会へ足をお止めいただきましたこと、心から感謝申し上げます。この3R大会ですけれども環境省が主催をして、経済産業省さん、農林水産省さん、そして北海道道庁さん、小樽市さん、札幌市さん、たくさんの協力をいただきまして開催しております。また、今日いろいろブースを出展していただいている NGO の皆様、またスタッフの皆様のご協力も頂いております。改めて感謝申し上げます。環境省の大きな施策として、今の日本の環境をそのまま次の世代にずっと残していく持続可能な社会を作っているということがございます。この持続可能な社会をつくるために、もう少し噛み砕いて言えば三つの社会を作っていくということ、色々施策を行ってきるところです。一つは低炭素社会、CO2をあまり出さない温暖化を防ぐ社会を作っていく、二つ目は、やはり自然の恵みをずっといただけるように自然を大事にして、自然と共生をしていく自然共生社会、三つ目が循環型の社会、限りある資源をうまく何度も使って暮らしていくという、循環

型の社会を作っていく、低炭素社会そして自然と共生する社会、循環型の社会、この三つの観点から、持続可能な社会を作っていくということ、私どもも努力しておりますし、皆様方も一緒に頑張りたいと思っている次第です。今日開催させていただきますこの3R大会は、そのうち循環型社会を形成するための啓発事業です。3R 皆様ご存知かと思いますが、リデュース、ゴミを減らしていきましょう、リユース、使えるものは長く使っていく、また、自分がいらなくなっても、誰かにあげるかそういうこととして使ってみましょう。今日は、ばくりっくコーナーがありますので、いらなくなったものを交換しあうということも大事かと思えます。また、リサイクル、プラスチック、ペットボトル、もう一度を新たな製品に作り直して行こうということです。この3Rにつきまして、役所の方から難しいこと言うのは、なかなか分かりにくいかと思いますが、今日は午後御三方に、3Rについてももう少し面白くやわらかくお話をさせていただく予定でございます。日曜日のお買い物の忙しい中、少しでもお時間の許す限り、お話を聞いていただければよろしいかな嬉しいかなと思っております。また、いろんな参加できるコーナーも用意しておりますので、お子様方と一緒に、色々ものづくりとか通じてですね、楽しみながらの3Rについて知っていただければと思っておりますので、皆さんよろしく願いいたします。主催者から一言、お願いをかねましてご挨拶させていただきました。今日はよろしく願いいたします。

## 出展者PR①

特定非営利活動法人  
札幌障害者活動支援センターライフ

松永 クニ子 氏

(コーディネーター:高嶋 伴子氏)



**MC:** 3R推進北海道大会主催者から、皆様にご挨拶をさせて頂きました。本日のイベント、夕方の5時まで会場内で行っております。今、ご紹介したこの3つのR、様々な循環型社会をまわしていくためにも、皆様に3つのRをよりよく知って頂いて、生活の中でどんなふう意識できるのかを知って頂きたいですね。会場内でワークショップなど、ぜひお楽しみくださいませ。それでは、会場内さまざまなイベントコーナーがございます。このイベントコーナーを皆様に深くPRをして頂きますね。ここからご紹介させて頂きましょう。昨年に続きまして、小樽でもお越し頂いています、ぱくりっこコーナーの特定非営利活動法人札幌障害者活動支援センターライフ松永クニ子さんです。お越し下さい。

**MC:** 3R推進北海道大会なのですが、昨年好評だったというふうにご案内したのですが、去年ぱくりっこコーナー大人気でしたよね。色々な方が、家の中に色々なものを抱えていて、捨てるのはもったいないけれども、何かと交換できるならという思いの方がたくさんいるのでしょうかね。そんな松永さんなのですが、今日はどんなものをお持ち頂いて、またどのようなコーナーなのでしょう？改めてご紹介頂けますか。

**松永さん:** ぱくりっこコーナーなのですが、実は私、先程長い名前でご紹介頂きました、NPO法人ライフと省略させて頂きます。NPO法人ライフは、札幌市の大型ゴミのリユース家具を即売している施設なのです。その中には、地区リサイクルセンターということで、たくさん資源物の回収もしております。イベントを年6回行ってまして、このイベントの中で最初にぱくりっこコーナーをしたのは、札幌消費者協会の環境研究会さんのおもちゃのぱくりっここというのやっています、イベントに参加して頂きました。その時におもちゃだけではなく、日用品のぱくりっこコーナーが無いの？という市民の声をもらって、環境研究会さんにご相談

し、平成22年10月のイベントから開催するようになり、今では月曜日、リユースプラザ休館日なのですが、祝日の場合は開館していて、土、日、月の3日間、年に大体7回ぐらいですね、開催しております。お持ちこみ頂きますものは、食器、景品で貰ったもの、貰ってきたのはいいのですが自分の家に合わないものなどです。

**MC:** 頂き物なので、捨てる時にどうしても心が痛みますよね。

**松永さん:** 誰かに使ってもらえればという事で、ぱくりっこをしています。

**MC:** 今日交換できるということですね。

**松永さん:** リユースプラザでは、お一人様5点まで、ご家族の場合は10点以内ということにしていますが、今日は3点以内ということをお願いしています、早速、ぱくりっこしてくれた方がいます。

**MC:** 普段、資源回収を実施されていて、良いものを変えたいと思われている方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか？

**松永さん:** リユースプラザは、大型ゴミにリサイクル希望ということでお申し込み頂きませんと、破碎車でごちゃごちゃに崩れてしまいます。リサイクル希望ということで、コールセンターの車の手配が変わります。引っ越しのようなトラックで回収致しまして、一旦、倉庫に入れます。そこから、リユースプラザは、洗っただけでの販売になりますので、大変、安くなります。まだまだ使えるカラーボックスが1点200円とか、立派な筆筒でも洗っただけなので、5,000円ぐらいということで即売をしています。

**MC:** どうしても家の中で、これは使って欲しいけれども、使えるものかの判断が自分で出来ないときはどうすれば良いですか？

**松永さん:** 一応、聞いてください。駄目な場合には、そこから部品を取っています。例えば筆筒、折角出してもらっても、北海道の場合、雪が降るので

## 出展者PR①

---

朝8時30分までに出して頂くことになっていますから、雪をかぶってしまって、表が駄目になってしまったものでも、引き出しに大変良い木を使っていますので、この木を取って、冬休み、夏休みの親子木工教室をやっているのです、その材料に使わせて頂いたりします。

**MC:**全体で扱えないと思っても、一部の釘や木でも再利用できるということなのですね、

**松永さん:**そうですね、迷ったらとりあえずリサイクル希望ですね。

**MC:**迷ったら捨てようではなく、迷ったら電話をして、とりあえず調べてもらうというのがいいですね

**松永さん:**但し、今のお話は札幌市のお話なのですが、小樽の方でも色々な取り組みをされているようですので、是非、自分のお住まいのところで調べになって頂ければと思います。

リユースプラザが、どれぐらいの家具を扱っているかをお話させて頂いてもいいですか。

平成21年度には販売個数が1699個、年間これだけ販売いたしました。平成27年度は2314個、今年度10月で1538個ということで、大変認知度が広がっていき、このようなところに皆様と呼んで頂いて、お話をさせて頂けるということで認知度が広がっています。ということは、ゴミになっていないのですよね。是非、リユース 繰り返し使うというところを上手に使って頂きたい。それから、資源物も正しく分別して出して頂く。リユースプラザでは、持ってきた資源物がちょっと駄目だなというときには、説明させて頂いています。資源物をリサイクル、資源に戻すためには余分なものは入れない、汚れていないというのが基本ですので、そんなお話もさせて頂いております。

**MC:**自分が捨てるものがあるので、ちょっと行ってみようかなというだけでも楽しいかもしれませんよね。そして、今日のばくりっこコーナーなのですがばくりっこをするだけではなくて、オセロをして楽しんでいる子供達がいるのですが、実は今日、名人にお越し頂いているのですよね。

**松永さん:**名人は車いすの生活をしています。でも、全国大会に行って3段ということでとっても強いのです。

**MC:**オセロって階級あるのですよね。日本オセロ連盟認定3段の岡林名人が来ていらっしゃる。

**松永さん:**オセロもとっても良いゲームです。お子さん達が、オセロに初めて触れ合って、岡林名人、特に大人の男性には厳しいのですが、女性とお子さんにはとっても優しいです。オセロの楽しさを教えてくれます。エコなゲームですし、対戦しているのを見ているご両親達も練習して、次の時にまた挑戦しようというコミュニケーションのツールにもなっていると思いますので、是非、岡林名人と対戦してみてください。

**MC:**色々な戦略があるかとは思いますが、黒、白で進めていく簡単なゲームですよ。是非楽しんで頂きたいですね。今対戦していますが、男の子も一生懸命考えているようですよ。是非、3段に勝つお友達が出てきて欲しいなと思います。最後に、松永さんご自身の3Rの実践、何かあればお願いします。

**松永さん:**私は、リユースプラザにいますので、繰り返し使うリユース、リサイクルセンターということで、資源物がリサイクルされるのを体感していますが、その前のリデュース、ゴミにならないようにとか無駄にしないように、これを日々、生活の中で感じるようにしています。資源のない日本ですから、私達の子孫のためにも、大事に一步一步3Rを進めていきたいなって毎日思っております。

**MC:**なかなか資源がないということを実感することがない分、3つのRを私たち自身が自制していかないといけないですよ。今日は、ばくりっこコーナーでたくさんの方とばくりっこ、宜しくお願いします。NPO法人ライフの松永クニ子さんに登場頂きました。ありがとうございました。



## 出展者PR①

協栄産業株式会社

石寄 洋樹 氏

(コーディネーター:高嶋 伴子氏)



ばくりっこコーナーのちょうどステージ向かって右手側の端の方でお越しいただいているのが、ペットボトルの自動回収機のデモ機の展示ご協力いただいております、協栄産業株式会社石寄洋樹さんです。どうぞステージにお越しください。お願いいたします。今、ご紹介したペットボトルの自動回収機、回収機というのが、ステージ向かいましてちょうど一番端の方に置いてあります。真四角のシンプルな機械なのですけれども、今日はあめをもらえるのですね。

**石寄さん:**今日は、ペットボトルをスーパーなどの店頭で回収する機械をお持ちしました。この機械で実際にペットボトルをつぶしていただき、ペットボトルリサイクルによるCO<sup>2</sup>削減など環境効果についてのご説明を聞いて頂き、その間あめをご用意しましたので、楽しんで頂けたらなと思っております。

**MC:**今日持ってきたいただいたペットボトルの自動回収機なのですが、どんなものなのでしょうが改めてご紹介をお願いします。

**石寄さん:**皆様は普段お使いになっているペットボトルを、ラベルとキャップをはずして、中をかるく洗って自治体の回収もしくは、スーパーの店頭にお持ちになって、リサイクルに協力して頂いていると思います。ペットボトルは、ご存知のように飲み終えてしまうと、空気を運んでいるようなものです。そのままの姿で運ぶと非常に運送効率が悪くなってしまいます。この機械を使って潰すことで運送効率を高めることができ、運搬の頻度を減らすことでCO<sup>2</sup>排出を抑制することが出来ます。

**MC:**確かに、家庭の中でペットボトルを捨てる時も、ゴミ袋の中にペットボトルが四、五本入ってしまうと、それだけで容量とりますもんね。これがぺっちゃんことになれば、さらにもっとたくさん入れられるのと思っている方は多いですね。

**石寄さん:**ラベルとキャップを外してもらい、軽く

洗ってもらうことで、実はリサイクルの効率が上がり、品質の高いリサイクル素材が生まれます。きれいなボトルを集めるために、この北海道のスーパーさんやコンビニエンスストアさんでも、こうした機械を使ったペットボトルの回収が始まっています。ボトルをお持ち頂いた方には買い物に使えるポイントをお返しすることで、その回収活動を知っていただくという動きが、全国各地に広がっているのです。

**MC:**ペットボトルは、つぶして袋にいれてもいいかな、なんて迷いもあるのですけれども、それをプラスチックとペットボトルで硬さのあるものですし、うまくぺっちゃんこにできないですね。

**石寄さん:**この機械の中には上手にボトルを潰せる工夫がしてあります。ペットボトルは、リサイクルの優等生と言われているように、単一の素材で作られています。瓶や缶などが混ざることが無いよう、機械の中に分別する機能も備えています。

**MC:**素晴らしいですね。ペットボトルが一番優秀とおっしゃいましたけれども、ペットボトルってどんなものに再利用されているのですか。

**石寄さん:**ペットボトルはこれまで卵パックや建築資材など、色々なものに生まれ変わってきました。最近では皆さんの分別の協力が広まったことや、リサイクル技術の向上により、より高度なものに再生できるようになってきています。身近なものと、使い終わったペットボトルから、再びペットボトルを作ることが出来るようになっていきます。同じものを作ることが出来ることから、水平循環と呼ばれています。リサイクルでは別の物にしか生まれ変わらないイメージを持たれている方が多くいらっしゃると思いますが、こうした水平循環の実現によって、新たに石油を使うことなく永続的なリサイクルができるようになりました。

**MC:**確かに、そのようなイメージ持っている方って多いですね。

## 出展者PR①

**石寄さん:**そしてこちらがリサイクルの最先端に当たる用途、プロサッカーチームのユニフォームです。最先端技術を結集し、高機能な繊維を編み込んで作られたこのユニフォームに日本の使用済みペットボトルが使われています。今年から世界最高峰のクラブチームで採用されています。

**MC:**誰もが知っているヨーロッパリーグのサッカーチームですよ。

**石寄さん:**リサイクルペットボトルでの採用は、協栄産業が日本で初ですね。

**MC:**憧れの選手のユニフォームになるとしたら、ものすごくきれいに洗う子供たちが多くなると思いますよ。夢がある機械でもあるのですね。今日は、実際にそのペットボトルを入れていただいて、最後にどんなふうな状態になって出てくるのかなというところまで見せていただけるのですよね。

**石寄さん:**実際に機械を使っただき、その効果を実感頂ければと思います。

**MC:**この機械なのですが、北海道内でどんなところに置いてあるかとか、何か現状がわかったりしますか。

**石寄さん:**北海道でも導入が始まっていて、これからますます皆さんの身近に広がっていきますよ。

**MC:**このようなものが、量販店とかスーパーにあると綺麗にして持っていかう、また、ポイントで何かお得なことがあるのだから持っていかうて気持ちになります。もっといろんな場所に、公共の場所に設置していただいて、より何か私たちの飲み捨てたと言いか方も変ですが、それがいろんなところで利用されるのが嬉しいですね。

**石寄さん:**PETボトルのリサイクルは、皆さんの協力があって成り立っています。引き続き、ラベルとキャップを取る、中を洗うという協力をお願いします。そしてこの機械を見かけましたら、是非ボトルをお持ちください。PETボトルなどに生まれ変わって、再び皆さんの手元に戻ってきますし、もしかしたら北海道のスポーツチームのユニフォームにも、皆さんの飲み終えたペットボトルが使われるようになるかもしれません。

**MC:**どんなふう再生されるのか、自動回収となっていますが、どのようにデモ機がしてくれるの

か、是非詳しい話も石寄さんに声をかけていただきながら、今日お楽しみください。ありがとうございます。この後の時間もよろしくお願ひいたします。本日も協力いただいております、出展社さまのピーアールコーナーご紹介させていただきましたのです。NPO法人ライフの松永さんですが、ぱくりっくコーナーですね。ちょうどステージ向かって右手側の後ろで、色んな物並んでますよね。この並んでいるものと、ぱくりっく交換することができます。是非皆様、今日この場所から家が近いという方、家にこんな不用品あったなんて方いらっしゃいましたら、是非、家からお持ちいただいて、ぱくりっくをして新しいものをゲットして、会場内お楽しみ下さい。そして、今ご紹介いたしましたペットボトルの自動回収機のデモ機、ペットボトルのリサイクル品なのですが、とても優秀なんですね。様々なものにリサイクルされております。ペットボトルがどんなものにリサイクルされるのか、また、どんなふう自動回収機の中で回収されるのかと、そしてペットボトルをきれいにすることが、どれだけ大切かなどもパネルでご紹介させていただいております。是非、この後のお時間もお楽しみくださいませ。この後は、12時30分から環境省環境カウンセラー NPO日本渚の美術協会会長本間きよしさんをお迎えいたしました、ステージトークがスタートいたします。是非、この後のお時間もお楽しみください。トークイベント12時30分からのスタートです。





## ステージトークショー ①

NPO日本渚の美術協会

会長 本間 清 さん

(コーディネーター:高嶋 伴子氏)



**MC:** ウィングベイ小樽にお越しいただきまして誠にありがとうございます。平成28年度3R推進北海道大会、皆様イベントにご参加いただいております。ありがとうございます。ここからの時間なのですが、ステージ向かって右手側で、貝殻の何かを作っているコーナーでお越しいただいている、環境省環境カウンセラー NPO日本渚の美術協会会長本間清さんをお迎えして、トークイベントスタートさせていただきます。本間さん宜しくお願い致します。本間さん、ステージ向かって右手側の方で、今日、結構な子供達に何人も参加していただいて、今日はどういうことをしていただいているんですか。

**本間さん:** ほたての貝殻、稚内の方からいただいたのですが、ほたての貝殻と高知県の方で集めた小さな綺麗な貝殻で、小物入れを作っています。渚のおしゃれな小物入れということで実施しています。

**MC:** 色々な貝殻があって、体験をしなくてもこんなにきれいなものが、私たちが普段歩いている海辺に落ちているものなのだっていうのが実感ですね。

**本間さん:** 海を歩いていると、本当に色々なものが落ちていきます。びっくりするようなものがあります。

**MC:** びっくりするようなものがあったり、綺麗なものがあったり、ちょっと悲しいなと思うものがあったりすることも、もちろんあるのですよね。今日、ゲストでお迎えしている本間さんなのですが、環境省の環境カウンセラーはどのようなことをしてらっしゃるのでしょうか？

**本間さん:** たいしたことをしていないのですが、私の場合は、海がテーマなので、海の美化啓発活動をテーマにして活動しています。

**MC:** カウボーイハットをかぶっていると山を舞台に

してそうですけれども、海なのでね。

**本間さん:** 海は日差しが強いので、必ず帽子が必需品なのです。

**MC:** ステージの後ろにこのようなマリナーが見えるって、本間さんテンションが高くなるのではないですか。

**本間さん:** 本当に海が大好きなので、特にヨット、モータークルーザー、このようなものを見ると胸が騒ぎます。

**MC:** 環境カウンセラーとNPO日本渚の美術協会、素敵なお名前なんですが、これはどのような団体なのでしょうか。

**本間さん:** 2000年に東京都の方からNPO法人として認定を受けました。海を美化するために、啓発活動をしていこうと。海へ行ってゴミを拾って、ゴミはゴミ屋さんに持って行ってもらって、ゴミ以外の工作になりそうなものを集めて、工作の材料として持って帰って、これを工作をして作り方を教えます。

**MC:** これがゴミからできた、ゴミという言葉を出すのも申し訳ないぐらいの素晴らしいものが、並んでいます。

**本間さん:** 僕は、ゴミといわずこのようなアート材料は、海からの贈り物と思って活動しています。

**MC:** 渚の美術協会という名前もおしゃれですけどね。

**本間さん:** 渚の美術というのを、英語に勝手に訳しました。海から生まれたアート、ということでシーボーンアート、ジャパンシーボーンアートアソシエーション、格好いいでしょう。

**MC:** 色々な活動とかしていく時に、格好良さは大事ですね。

## ステージトークショー ①

**本間さん:** そうですね。シーボーンアートを是非、ネットで検索してください。北海道はまだ今回二回目ですね。

**MC:** 本間さんご自身なのですが、NPO渚の美術協会を設立されて、本間さん自身が海が好きになったきっかけとか、このような活動をしようと思ったきっかけはあるのですか？

**本間さん:** 私は、子供のころから海が好きで、海に行ってはものを拾うのが好きだったので、ものを拾っていましたが、ただ集めているだけではつまらないということで、それを工作にしました。それをテーマにして活動していると、ゴミを拾うのが宝さがしに変わるのですね。つらかった清掃が楽しくなる。

**MC:** 今、この団体を設立されているきっかけは、海が好きという思いで・・・それでゴミを拾っていたのが宝さがしに代わり新しいものを見つける。本間さんが一番始めに拾ってきた海の贈り物はどうのようなものですか？

**本間さん:** 高校のころに海でキャンプをしていました、その頃がゴミを捨てていました。コカ・コーラが出始めてそれを海に捨てると、綺麗に岩によっては割れるのですね。そんなことをしていました。ただ、キャンプの時に可愛い女の子が三人いたのですね。それを拾ったら女房になりました。海からの贈り物です。

**MC:** そのようなきっかけはあるのでしょうか。誰かが褒めてくれた、ちょっとそのようなきっかけで好きになってくれたという。

**本間さん:** 海には、色々なものが落ちていのかなど、恋も落ちていました。

**MC:** いろんなちょっと自分がいいかなと思った活動も、若い方っていい事ってわかっているけども、気恥ずかしさとか恥づかしさがある、ちょっと手が伸びないってことあると思うのですよね。

**本間さん:** 僕らが活動を始めた二十年ぐらい前は、ゴミを拾っていると、なに恰好つけているのだと意外と白い目で見られて、でも最近は、拾っているとゴミ袋の中に入れてくれます。美化の意識も随分変わってきたなと思いますね。

**MC:** それこそ、ここ十年、二十年ぐらいで確かに私も今思い浮かべてみると、昔ゴミを拾っている方はあまりいなくて、今は海でも街でも、そういうこ

とを自主的に活動したり町内の活動としてゴミ袋を持って、今日は拾おうという日があったりですか、当たり前になってきていますよね。

**本間さん:** 本当に、時代は変わってきていますよね。ただ海はですね、まだまだどこへ行ってもゴミだらけなのです。これ最近の写真なのですが、沖縄の方の伊良部島というところの海岸です。

**MC:** 綺麗なイカ釣りのガラスの玉が上がっているのかなと思うのですが、よく見たら違いますね。

**本間さん:** 海がものすごく青くて、砂が白くて、まさに海岸全体がアートという感じなのに、ゴミだらけですよ。

**MC:** このコントラストって、砂浜にゴミがなければもっと綺麗なものになりますよね。

**本間さん:** これは新潟県の方ですね。新潟県の柏崎市の海岸で、これもですね、本当に台風の後っていうのは、海の中に隠れているゴミが全部上がってくるのです。

**MC:** 台風だから出てくるってわけじゃなくても、普段から海にゴミを捨てなければ、台風で海が荒れてもこういったことにはならないですよ。

**本間さん:** 海の中に沈んだままじっとしています。これは、沖縄の与那国という島ですね。これも海、青くて砂白いですよ。

**MC:** 沖縄の海って青い海、白い砂浜以外のものがないように感じるのですが、沖縄でもゴミが砂浜に上がっているのです。

**本間さん:** 日本の近海って偏西風、西からの風があります。大陸から、朝鮮半島とか中国大陸の方でゴミを捨てると、偏西風に乗って日本にくるのです。この中を見ると、ハングル文字とか読めない文字がいっぱいあります。逆に、日本のゴミは、日本海を渡って大陸に行かないのです。

**MC:** 環境をきれいにしよう、ゴミを少なくしようと単純にっていますけれども、これ当たり前なのですが、日本だけではなくて全世界的に広がると、これは素晴らしいことになりますよね。

**本間さん:** これは、神奈川県の大子の海岸なのですが、これ川の様になっています。

**MC:** 綺麗に並べた何かかなと思うのですけど。

**本間さん:** これは発泡スチロールですね。漁師さん

## ステージトークショー ①

なんか魚を入れる発泡スチロールの箱、それが砕けるんですね。一つ発泡スチロールの箱が砕けると、何万、何十万個に分かれます。細かくなってそれが海に漂っています。これはギルバート諸島、太平洋の真ん中にやはりゴミが集まります。これを鳥が餌と間違えて食べてしまい、これ鳥の死骸なのですが、鳥のおなかの中、ちょっと見て。

**MC:** すごいですね、色々な機械ですとか、灯油を入れる蓋とか出てきていますよね。

**本間さん:** ペットボトルの蓋とかライターとか、これ間違えてみんな鳥が餌と思って食べてしまうんですね。これさっき言ったように、南の島にはアホドリが産卵しています。子供にお母さんが、口移しでゴミをあげちゃうんですね。それと、魚網にひっかかっちゃった亀さん、亀さんも目が悪いので、浮いているものをなんでも食べます。例えば、亀さんは、ビニール袋がぶかぶか浮いていたとします。それ食べちゃうのですよ。何故かと言うと、亀さんの大好物、クラゲなのです。ビニール袋がぶかぶか浮いていると、勘違いして食べちゃいます。そして、おなかを壊して死んでしまう。浮力が体内に発生してしまうので、もぐることが出来なくなる。漁網なんか絡まって死んでしまう。これは、あしかが針金にからまってしまって、そのまま大きくなっちゃったということで、全て地球上に住んでいる私達の仲間が、私達、人類が捨てたゴミで大変なダメージを受けています。

**MC:** そのダメージって、なかなか感じる事ができないというか、身近にあるようでダメージってなかなか感じられないですよ。例えば、私達の家のある公園の砂場で考えると、大変なことですね。

**本間さん:** 近くの公園の砂場、誰かが掃除していますよね。

**MC:** 掃除する人がいるということは、ゴミがあるということですよ。

**本間さん:** 東京の千代田区というところでは、タバコのポイ捨て禁止条例ができています。タバコを吸って、昔はポンと捨てていましたね。今、ポイ捨てが見つかると二千円取られます。

**MC:** 札幌市の中でもそのような条例ありますね。

**本間さん:** 全国でタバコのポイ捨て条例が出来てきています。それを例えば、川に行って海に流れて行って、海の生物達が間違えて食べてしまう、小さくなったマイクロチップになったような小さなゴミは、小さな魚も食べます。小さな魚が食べる、中くらいの魚がそれを食べる、それを大きな魚が食べ

る、循環していくと、最終的に大きな魚を人間が食べているのですから、我々の体内に帰ってくる、怖い話ですね。

**MC:** 循環で悪いものを取り入れた時に調子が悪くなり、そこで感じるのではなくて、捨てる以前の部分で、私たちが感じて活動またアクションを起こしていかないと何もならないですものね。本間さんには、こう言った現状を伝えて言っている団体の皆さんではあるのですけれども、いや大変だよ、ゴミ拾わなきゃね、なんて言うような話だけではなくて、楽しさを伝えることの方が、本間さんは得意なのかもしれないですね。

**本間さん:** 誰が捨てたかわからないゴミを拾っていても、つまらないじゃないですか。

**MC:** 本間さんが行っている活動は、ホームページを拝見したら、これがゴミなのという芸術品が、素晴らしい作品でびっくりしました。

**本間さん:** 海にはアートの素材として、大きく分けると貝殻とシーグラス、海に落ちているガラスですね。人間が捨てた瓶とか、海で夕日に向かってバカヤローとか言って捨てるじゃないですか。そうすると、海が怒って波で割って粉々にしてくれるのです。そして、宝石のようにしてくれます。これは海から生まれたシーグラスと呼んでいます。

**MC:** 贈り物という言葉がぴったりですよ。綺麗なシーグラス、人気があって海辺にないのですよね。

**本間さん:** 湘南海岸では、昔はいっぱいシーグラスがあったのですが、今、なくなっちゃいましたね。

**MC:** 今の言葉でいえばストレートになりますが、これはお金になるってことですよ。ゴミで揚がってきた物がお金になるってすごいですよね。

**本間さん:** その前に、2002年にFNSのフジテレビ系の番組で27時間テレビというのがありまして、その時に湘南海岸で、一万集めてゴミ拾いをやろうとってシーグラスを集めたのです。八千人ぐらいしか集まらなかったのですか、集めたシーグラスで、逗子というところがあって、逗子マリーナという川端康成先生が亡くなったマンションがある逗子マリーナに全部、湘南海岸のガラスを集めて、三メートルぐらいのガラスの灯台を作ったのです。

**MC:** 今でもあるのですか。

**本間さん:** 今はゴミとして処理しました。全国を旅しましたけど、そのガラスの灯台。



## ステージトークショー ①

**MC:**これが八千人集めたシーグラスで、すごく素晴らしいものができたのでしょうか。

**本間さん:**シーグラスというのが、海に落ちているのだということ、この時、皆さんが知ってくれたのです。シーグラス面白い、拾おうとなって拾い始めています。今度、シーグラスをお金に換えようと。ビーチマネーということで、ビーチマネーとして今流通しています。シーグラスを持って、例えば、鎌倉とか茅ヶ崎の辺の喫茶店へ持って行くと、何個か持って行くと、コーヒー無料です。

**MC:**そうなのですね。コーヒーが無料だったら、シーグラスがなかなか湘南の海にないというのがわかる気がします。

**本間さん:**不心得者がいまして、シーグラスを養殖しているやつがいます。これは悪い話です。

**MC:**シーグラスがあって、貝殻、流木などもそうですが、シーグラスをボンドでくっつけて。

**本間さん:**セメダインという接着剤で、くっつけながら点灯するとこんな感じです。

**MC:**綺麗なやわらかい光ですね。玄関などに置いておくと夜とかもいいですね。

**本間さん:**これは誰でも3時間ぐらいでできます。

**MC:**貝殻も中にあかりを入れるとよさそうですね。

**本間さん:**これは、愛媛県の方で養殖している椀扇貝という貝です。

**MC:**これは貝自身の色?

**本間さん:**自然の色なのです。大きくなると、ほたてと同じようになって、ほたてより味が濃いです。日持ちが悪いので、関東ぐらいまでしかきません。これも、食べた後はゴミでしょ。そのゴミを僕はもらって、アートにしています。

**MC:**こんな色とりどりのものがあるのだということも私知りました。

**本間さん:**貝殻、色がついていても、中をあけると同じ色なのです。後、これは先月、稚内のイベントで稚内の海岸を歩いていたら、いっぱい落ちていたほたての赤ちゃんです。

**MC:**本間さんは、北海道でイベントされるということが二回目ということで、一回目が稚内、稚内に何のイベントで行かれたのですか?

**本間さん:**子供の体験学習みたいな、子供が色々な職業体験をする。

**MC:**そして、稚内の海岸にいったら、ほたての子供が落ちていた。

**本間さん:**ほたての死骸はチョークにもなるのですけれども。

**MC:**そうなのですよ。ダストレスチョークと言って、チョークにもなるのですよね。

**本間さん:**僕らは、チョークなどできないので、これをアートにして、明かりをいれるとこんな感じになります。

**MC:**これも、すごくかわいらしい。柔らかい、いいですね。ちなみに、中に入っているのはシーグラス?

**本間さん:**白いシーグラスですね。でも、これだけだとつまらないので・・・地味かな。

**MC:**今、太陽が出てきたので、皆さんもしかしたらこの後、イベントをご覧になって海辺を歩くって方も出てくるかもしれないですね。今ちょっと海はいけないですけども、銭函とか朝里の方に行つて、ちょっと海の方歩いてみようかなと思う方もいるのではないのでしょうか。

**本間さん:**海に行ったら、何か拾ってみてください。これは、ライトの電球を変えるとこんな感じで・・・こんなこともできます。

**MC:**これを見ると、家でもできそうな感じがしますね。

**本間さん:**出来ます。でも、作り方は教えません。渚の教室が、全国に二十か所ぐらいあります。沖縄から本土では福島ぐらい、北海道には教室がないのですが、その教室で作り方をお教えしています。

**MC:**今、手にしているのが流木なのですが、本当に流木って、どこにでもありますよね。海じゃなくても、キャンプで山に行ったらありますね。



## ステージトークショー ①

**本間さん:** 流木も作り方によっては、色々な作り方があるのですが、一番簡単なやじろべえ。

**MC:** やじろべえの支点になっているところも貝なのですね。

**本間さん:** こんなのは簡単に作れますので、お子様の工作にお母さんが力を与えてあげれば。

**MC:** 本間さん、よく見たら貝が亀になっているのですよね。可愛いんですよね。本間さんが今開催していただいている貝殻アートのところにも置いてありますので、ここでヒントを得ていただいて、家でどんな風に作ってみようかなっていうのを考えるのも楽しいのかもしれないですね。貝殻と流木とシーグラスと後、その他にも海の材料ってありますものね。

**本間さん:** 後ですね、僕らが注目しているのが、海のゴミではないのですが、海藻というのがあります。一般的には昆布とかわかめとかひじきとか。

**MC:** 標本のように並べると、こんなに色がいっぱいあるのですね海藻。

**本間さん:** 海藻は陸上の植物と同じように、海の中で光合成をしています。炭酸同化作用、昔習いましたよね。水中にあるCO<sub>2</sub>を吸って、酸素を排出しています。陸上の植物も同じように、大気中のCO<sub>2</sub>を吸って酸素を出している。人間は、その酸素をいただいて生きています。海の中も同じように、光合成をしています。海が汚れると海藻が育ちません。育たないといろんなこと困りますよね。だから海を綺麗にしようよということにつながってきます。

**MC:** 私達の体の中に最終的に入ってくるものということですよ。

**本間さん:** 日本近海には千五百種類ぐらいの海藻があります。

**MC:** でも海藻アートって、こんなことも出来るのですね。すごくかわいらしい。これこそ芸術品ですね。これは本間さんが作られたのですか？

**本間さん:** それは海で拾った奥さんが作りました。これは江戸むらさきじゃない江戸前の海苔、浅草海苔の原料などの海藻で作られています。

**MC:** 先ほどの海藻アートの方もとみこって書いてありますが、かなり海藻アートをされている方なのですか。

**本間さん:** はい、うまいですね彼女は。

**MC:** 本間さん、色々な活動をされているのですが、今日持っていらしたほたてが稚内のほたてで、小さ

な貝殻が高知の貝殻、北海道は稚内と札幌でイベントをされていますが、本間さん自身の北海道の環境のイメージ、何かありますか。

**本間さん:** 太平洋に面している方とオホーツク海、日本海に面しているところでは、ゴミの種類が違いますね。オホーツク海とか日本海、石狩湾もそうですが、大陸からの読みなれない文字のペットボトルなんか来ています。太平洋側は、まだ行ってないのですが、あるとすれば私たちが捨てたゴミだと思います。ただ、北海道の海は比較的綺麗な気がします。昨日もちょっと電車に乗ってきたときに、海岸線見たらあまりゴミがないと、嬉しいことなのですけど、私にとっては何か寂しいな。

**MC:** 何かを拾いたいと思ってしまうのかもしれませんが。本州に暮らしている方からすると、北海道のきれいな空気、綺麗な海、綺麗な街っていうのを楽しみにしてくる方が多いじゃないですか。そんな街にゴミがあつたりすると、ちょっとなんか残念だなという気持ちになるのではないかと思います。それは、北海道に住んでいる私達が、本間さんみたいに北海道に来る方を迎えることとして、ちょっと心がけていけないといけないと思いました。

**本間さん:** 本当に、昨日も小樽の街を夜に歩いていまして、煙草も落ちていないし、ゴミも落ちていない。本当に小樽、綺麗な街ですね。

**MC:** 小樽の美味しい海産物も召し上がったと思いますが、美味しい海産物をいつでも食べられるように考えると、ゴミを捨てずに、もしゴミがあってもそれをリサイクルするか、このような素晴らしいアートにしていくというのが楽しみの一つでもありますね。今日の貝殻アートのご紹介改めてお願いします。

**本間さん:** 材料、今日五十セットだけ持ってきています。半分ぐらい無くなりましたけれども、材料がある限りやっていますので、大人のお姉さん、お母さんでもオーケーにしますので、是非、遊びに来てください。

**MC:** 今日は、たくさんの子供達にご参加いただいております。稚内のほたてに高知で拾った貝殻をつけた小物入れを作ることが出来ますので、皆様是非、この後のお時間もご参加くださいませ。本日は、環境省の環境カウンセラーで、NPO日本渚の美術協会会長、素敵なお名前の団体の本間清さんをお迎えいたしました。ありがとうございました。今、ステージでご紹介したさまざまな作品ですとか海藻アートは、テーブルの方でご紹介頂きますので、よろしく願いいたします。さあ、皆様、貝殻の

## ステージトークショー ①

小物入れ作ってみませんか。今日は、先着五十名様にご用意しておりまして、あと半分ぐらい、二十五名ほどが参加できるということなのです。会場のお子様も是非、今本間さんがそちらに戻りますので、ぜひご参加いただければいかがでしょうか。ポンドと貝殻でできる、簡単に皆さんが参加できる小物入れとなっております。

改めまして皆様、本日は3R推進北海道大会にお越し頂きまして、誠にありがとうございます。皆さん、会場内クイズラリー楽しんでいらっしゃいますでしょうか。会場内では、アンケートに答えていただき、そのアンケートと六つのクイズラリーに答えていただきまして、皆様に参加いただいております。皆様、この後は1時30分ステージ開始となりますが、それまでの時間、会場内で様々なアトラクション、ワークショップにご参加ください。今ご紹介いたしました、貝殻の小物入れ作ってみませんか。残りあと二十五名程となりました。そして、カプセルでオーナメント、カプセルでガチャ楽器などは、アンケートにお答えいただいてガチャガチャに参加いただきます。ガチャガチャのガチャで作っていただく、オーナメントと楽器なのです。そして、ぱくりっこコーナーでは、皆さん日用品で何か足りないものありませんか。みなさんの足りないものを素敵なものと交換できるぱくりっこコーナーがございます。そして、印刷物ライフサイクルすごろくでは、本を印刷する方法をなるべくCO2を出さずにゴールできるかどうかチャレンジしていただくすごろくとなります。二つのRの事も学ぶことができる巨大すごろくです。是非、ご参加ください。またペットボトルの自動回収機のデ

モ機、皆様に体験していただいております。ペットボトルがどんなふうに自動回収機で回収されるのか、どうぞご覧ください。体験していただいた方には、飴をプレゼントさせて頂いております。この後の時間も会場内、どうぞご覧ください。3Rの推進のイベントです。3つのRどんなRなのでしょう。私たちの生活に密接な関係があるRです。是非、会場内でそのRを楽しく学んでお楽しみください。この後、二組目のステージアトラクション、アンダーザパーマスの二人をお迎えしたライブ演奏が1時30分からスタートいたします。





## ステージアトラクション②

Under The Palms

(コーディネーター：高嶋 伴子氏)



**MC:**ありがとうございました。アンダーザパームスのお二人でした。よろしくお願ひいたします。小樽出身のお二人なのですが、小樽のこのステージに立つのは?

**アンダー:**初めてですね。初めてこのような開けたホールでやったのですけれども、音もよくてすごく気持ちいい空間でした。

**アンダー2:**緊張しました。

**MC:**今日は、音楽と関係があると言っていいでしょうか。3Rというイベントなのですが、3つのR、日常の中で何か節約したり使い回し、リサイクルのできるようなもの、心がけている事って何かありますか。

**アンダー2:**とりあえず、家具とかを捨てないでゴミをださないで、リサイクルショップなどに売りに行く、または、再利用しています。

**アンダー:**父が、ゲームがすごく好きなのですが、いらぬファミコンソフトなど捨てるのがもったいないからお前がやれと・・・

**MC:**そんな楽しみ方があるんですね。ちなみに最近やっていたソフトは何ですか。

**アンダー:**マッピーですね。

**MC:**それは、お父さん世代からすると、なつかしいと盛り上がるものなのですね。3つのRということで、ゴミを出してしまうのは仕方がないので、でも、出したものをリサイクルして、循環させていこうということなのですが、何かこのイベントでちょっと心がけていこうかなということありますか?

**アンダー2:**ゴミを出さないように、なんでも再利用。

**アンダー:**結構、仕事柄、いらなくなった電卓とか紙とかがたくさんあるのですが、とりあえず捨てないで家に持って帰って、何かに使うようしています。パソコンのマウスなども全部、そうです。

**MC:**そのようなものでも資源、リサイクルセンター、ご案内も今日していますので、是非、ばくりっこコーナーなど詳しくご覧になってみてください。やさしい音色を聞かせていただきましたUnderThePalmsのお二人ですが、どうぞ、大きな拍手でお送りください。普段ギターの音色を皆様にかけているお二人なのですが、3R日頃からちょっと気をつけることで何かが違ってきますよね。頂いたものを自分で大切に使う、お父さん、お母さんが使っていたものを自分の手でも使っていこう、そんな思いが込められているとも思います。ありがとうございました。このあと、ステージトークショー二回目、準備ができましたらスタートさせていただきます。皆様、平成28年度3R推進北海道大会、楽しんでいらっしゃいますでしょうか。会場内では、ガチャガチャのガチャを使ったオーナメントや楽器、また、すごろく、そして、会場内では貝の小物づくりなど、様々なアトラクションがあります。実は、このアトラクション全て、三つのR、3Rにつながるアトラクションとなっているのですね。どんなものにつながっているのでしょうか。会場内、クイズラリーなどをお楽しみいただきながら、アンケートにもご参加ください。それでは、準備が出来次第、二回目の3Rのステージトークショースタート致します。



## ステージトークショー②

京菓匠 笹屋伊織

株式会社イオリ・コーポレーション

取締役社長 田丸 みゆき さん

(コーディネーター:高嶋 伴子氏)



**MC:**皆様、本日はウイングベイ小樽にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。そして、平成28年度3R推進北海道大会によるこそお越しいただきまして、ありがとうございます。会場内の様々なワークショップへも、すでに真剣に参加している大人の方も子供の方もたくさんいらっしゃるのですが、是非、お耳だけでも貸していただきまして、ここからのステージ、お楽しみくださいませ。素敵な着物の女性をお迎えしておりますが、まず、ご紹介させていただきます、京菓匠笹屋伊織十代目女将でいらっしゃいます、また京都観光おもてなし大使でもいらっしゃいます、そして、一般社団法人自然環境文化推進機構の理事でいらっしゃいます、田丸みゆきさんをお迎えいたしました。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。お話しさせていただきます。今、田丸さんをご紹介するときに、三つご紹介させていただきました。まず、何からご案内した方がよろしいでしょうか？京菓匠笹屋伊織十代目からお話ししましょうか。お菓子のお店なのですよ。

**田丸さん:**京都で和菓子屋を営んでいるのですけれども、今年で創業がちょうど三百年になりました。

**MC:**その十代目の女将ということなのですね。どのようなものを取り扱っていますか。

**田丸さん:**皆様方が普段、和菓子だなどと思う最中とか羊羹とか饅頭とか、それがほとんどなのですが、うちの場合は月に三日間だけしか売らない「どら焼」がありまして、弘法大師さんの命日が毎月21日なのですけれども、それにあわせて三日間作っているという特別なお菓子がございます。

**MC:**札幌でもお菓子を買うことができますか。

**田丸さん:**私共は、北海道とのご縁は十五年前ですね。札幌駅に大丸百貨店さんが出来ました時に、私共も一緒にこちらに出店させていただきましたので、北海道とのお付き合いは十五年近くになります。

**MC:**では、大丸札幌店の方に行けば笹屋伊織さんの和菓子は買うことができます。

**田丸さん:**是非、来てください皆様。

**MC:**それがきっかけで、北海道とお店の関わりがあるということですね。では、田丸さんご自身はこのイベントの関わりというのは、また、ご紹介した二つの肩書になってくることですよ。

**田丸さん:**今回のこの3Rのイベントに関しましては、自然環境文化推進機構の方の理事を務めておりますので、こちらの関係で来させていただきました。

**MC:**一見、和菓子のお店をなさっている女将が3Rの環境のイベントでお話すると言うと、関係性があるのかなと思うのですが、どんなところで繋がっていくのでしょうか。

**田丸さん:**京都人はケチやと聞いたこと、イメージ的にもありますよね。ケチともったいないというのは、違うですよ。京都人のよく言うケチというのは、始末をするということです。この言葉がよその人にはなじみが無いのですが、始末するというと刑事ドラマなどでは怖い言葉で使われていますが、節約をして、無駄をしないってことなのですね。あの人は始末屋さんやからって言う、それは褒め言葉なのですね。あそこの奥さんは、よう始末しはるといって、気立てがいいとか、そのような意味なのですが、京都は始末をするという土地柄がそうで、食べ物をととても大切にします。聞き覚えがあるかもしれませんが、お芋にも「さん」をつけるのですよね。おいもさんとかおまめさんとか、食べ物に「さん」をつける。おばんざいって京都で聞きますけれども、ばんざいというのはデイリーな普段使いのお茶の事を番茶と言うのですが、おばんざいっていうのも贅沢じゃなくってあの家庭用のおかずのことをおばんざいっていうのです。

**MC:**おばんざいは京都の言葉なのですね。

**田丸さん:**知りませんでした？おばんざいという言葉



## ステージトークショー②

は全国区になってきているのですが、おばんざいは京都の家庭料理のことなのですね。私共は、創業三百年なので、古くからお店をやっていますから、丁稚さんとかが昔はいはりまして、住み込みで働く若い人達のことなのですが、その方たちのお食事もお世話していたのですが、その時にあのおばんざいのバンっていうのは、先程も申し上げましたように普段使いのっていう意味もあるのですが、もう一つは順番にという意味もありまして、毎日毎日決まっていますね。一日はこれ食べる、二日はこれ食べる、献立がずっと決まっています。そうしますと無駄がないのですね。これを使う予定というのが決まっていますから、食材に無駄がなくなる。なので、京都というところは、食材に対しては無駄にしないところではないかなと思います。

**MC:** 私達が普段、居酒屋さんなどでおばんざい多く取り揃えていますというのを見ているのですが、おばんざいは色々な意味が込められているのですね。

**田丸さん:** おばんざいを、お金を出して食べるという感覚は、私たちのもっと上の世代には、びっくりするようなことやと思います。

**MC:** 京都の方が意識をしている後始末をするという感覚なのですが、お店をやってらっしゃる感覚も始末をしななければならないというのもついてまわるものですか？

**田丸さん:** そうですね。私共は、お菓子という食べ物を扱っていますので、余計に残してはいけない、売れ残してはいけない、売れ残ってしまいますと全部破棄になってしまいますので、なるべく売れ残らないように考えて数を作って、売り切るように売るという事をしていかないと、本当にそこら辺も大雑把にしますと、どんどん廃棄のお菓子が出ちゃいますしね。お菓子といえますのは、ほとんどが植物性な



のですね。特に和菓子。洋菓子は、卵とかバターとか使いますけれども、和菓子はほとんど植物性です。

**MC:** それが和と洋のお菓子の違いなのですね。

**田丸さん:** 原材料の違いは、そこが大きく違いますね。農耕民族である日本人が、汗水流して作りましたそういった小豆ですとかお米ですとか、手間暇かけて農家の方々が作ったものを無駄にはしたくないって思いは強くありますね。

**MC:** お店で始末をするという心がけの中で、田丸さんが女将だけではなく、また、違ったおもてなし観光大使や環境の理事をやられているのは、そのようなことに向けて活動され始めたきっかけは何があるのですか？

**田丸さん:** きっかけは、食べ物の大切さですとか、お菓子ってとっても意味がこもっているのですよね。あの先ほど、和菓子と洋菓子の大きな違いは材料だというふうに申し上げましたけれども、もっと違うところは洋菓子にはあまり意味が込められてないのだけれども、和菓子にはとても意味が込められていることを伝えたかったんですね。

**MC:** 和菓子を見るだけで四季を感じられるとかありますし。

**田丸さん:** お誕生日にお家でお菓子を買って帰られるとしましたら、どんなお菓子を買って帰られますか。私が和菓子屋だからといって遠慮しなくても結構ですよ。

**MC:** 私は生クリームが得意ではないので、チーズケーキを買って帰りますね。

**田丸さん:** ケーキを買って帰られますよね。たぶん、会場の方々も小さいお子様などおられましたら、当然、ケーキを買って帰りはと思うのですが、じゃあ、誕生日にケーキを食べる意味は知っていますか。

**MC:** ろうそくを吹き消す意味はわかるのですが、ケーキを食べる意味はわかりません。

**田丸さん:** クリスマスイブの時には、どのようなお菓子を買って帰られますか。

**MC:** チョコレート、そしてクリスマスケーキですね。

**田丸さん:** クリスマスの時は、ケーキを買ってお家に帰られると思うのですが、ケーキを食べる意味はご存知ですか。

## ステージトークショー②

MC:お祝いですかね。

田丸さん:それは、ケーキでない駄目なのですかね。でも皆様、ほとんどの方がケーキを買って帰られる。ケーキを食べる意味は残念ながらないのですね。お誕生日にケーキを食べたら、その人がどのようにになるとか、例えば、クリスマスに家族でケーキを食べたら、その家族はどういう家族になるかというのはないのですね。洋菓子は、あまり意味があって食べるわけではないです。では、和菓子なのですが、5月5日のこどもの日に食べるお菓子は何かご存じですか?

MC:柏餅

田丸さん:そうです。柏餅は柏の葉っぱに包まれているから柏餅というのですが、あれにはとっても意味がありますね。柏の葉っぱで包んでいるのですけれども、なぜ、柏の葉っぱで包んだおもち5月5日に食べるかと言いましたら、柏餅は江戸時代から作られているお菓子なのです。江戸時代に武士のお家のお庭には、必ず柏の木を植えていたのですね。何故かという、柏の葉っぱと言うのは、次の新しい赤ちゃんの葉っぱが出てくるまで、古い葉っぱが落ちないので、次の新しい新芽が出てくるまで古い葉っぱが見守って落ちない、その姿が、子供の成長を無事に見届けてからでしか死ねない親の気持ちを表しているのですね。それが、柏の木に宿っているとか。あと、江戸時代の武士の家のお子さんたちは、戦が始まりますとみんな戦に入ってしまうので、何とか生きて帰ってきてほしいということで、柏の木はたえず葉っぱという命が宿っていますから、命が途絶えない木というふうに縁起を担いでいたわけなのです。5月5日に青々とした新緑の柏の葉っぱでお米、お米は日本人にとりまして命なのです。白い神聖なるおもちを柏の葉っぱで包み、それを家族で食べて家の繁栄と、それから、そのうちの子供の成長を祈りながら食べたお菓子なのです。和菓子っていうのは、とってもその日本人の家族を思う気持ちですとか、家を大切に思う思い、食べ物、白い神聖なおもち、柏の葉っぱ、ものを敬う気持ちがとっても込められている祈りのあるお菓子なのです。

MC:確かに、子供の日、端午の節句だけではなく、日本は暦こよみで必ず何かがあって、それについて和菓子が浮かびますよね。

田丸さん:私が京都観光おもてなし大使として広げていきたいところは、そのようなところ。四季で色々なことを学べる、日本人が大切に守ってきたものが見ていただくことができるのじゃない

かなあとと思います。

MC:田丸さん自身が、伝えたいことの一番大きいことは何でしょうか?

田丸さん:今回のこのイベントに関しては、リサイクル、リユース、リデュースもありますが、私の場合は、食べ物を大切にすることにあたって、私は母親でもありますので、今日もたくさんお子様連れのお母様方がいらっしゃいますし、お母様方に子育てをしてどういうふうに分たちのお子さんを育てて、食べ物を大切にすることを伝えていくということ、私たちが小さい時みたい、お米の中には千人の神様がいてとか米粒は残しちゃいけないよとか、だんだん教えてくれる人がいなくなりましたよね。今はどちらかというと、炭水化物ダイエットなど、お米食べちゃ駄目とかありますし、その時代時代に合わせた食べ物を大切に扱う教え方であると思うんですけど、私が子供に教えてきましたことは、まずはバイキング。今、バイキングはやはりですよ。

MC:人気のところは、行列などでできていますよね。

田丸さん:バイキングは、ついついたくさん取ってしまいますね。

MC:特に最初の一皿目は、おなかがすいていすから大変なことになります。

田丸さん:子供さんは、からあげばかりとか、ウインナーばかりとか、好きなものをてんこもりを持ってきて野菜は食べない。女性の方でも、ぱーっと取っちゃって、後からあれも食べたい、しかし、最後にはお皿にたくさん残すとか、お皿にものを残して平気な女性は、私は美しくないと思うのです。子供さん達も、やっぱり自分のお母さんが食べ物をお皿にいっぱい取ってきて、それを残して食べないっていうのを見せてはいけないと思うので、バイキングが一番その子供に対する食事の勉強する良い場だと思うのです。バイキングの会場に行きましたら、まず、ほとんどの方がトレーを持って順番にとって行くのですけれども。

MC:確かに列に並んでしまいます。

田丸さん:列に並ぶ前に、どんなお料理が出ているのかということを一通り全部見て、自分のその中で食べたいものを決めるわけですね。これとこれとこれは絶対食べたい、それで初めて列に並ぶ。なので、お子様つれている方はお子さんと一緒に、まずバイキングの会場を全部一通り見て歩いて、何が食べたいのかを、これは、お肉ばかりだとダメだからこの野菜も食べてみようねなど、お話をして



## ステージトークショー②

から並ぶのですね。その時決めたものを取る。見ていると欲しくなっちゃうものがあつたら、今度このお皿を全部食べてしまってから、取りに行こうねという約束をして回りますと、割りとバランスよく取れます。それが、最初から何も見ないで並んでしまいますと、順番に一個ずつ取ってしまうということに。

**MC:** バイキングを楽しんでいた時に、後からここにこんなものがあつたと気づいたのに、お腹がいっぱいでそれを取れない悔しさはないですものね。

**田丸さん:** バイキングのお行儀の良さというのは、立ち上がってテーブルを後にする時に、いかにお皿が綺麗になっているかと言うことで、ぐちゃぐちゃで汚い状態なのか、本当に綺麗な状態なのかというので、そのご家庭というのが見えてしまいます。バイキングは、冬休みに向けて、クリスマスバイキングとか色々あると思いますけれども、ちょっと気をつけていただいて、お子様を野放しにして好きな物を取ってこさせないようにしていただいたら、お子さんが大きくなつたらそのように育ててもらって良かったなつて思ってもらえると思いますので、そうしていただきたいなと思います。

**MC:** 田丸さんが振る舞いや女性の所作について色々講演されていますけれども、今聞いているとちょっとした振る舞いも無駄のないことにつながっている流れなのですね。

**田丸さん:** 女性としまして、私も子供もおりますし妻でもありますし女将でもあるわけですが、一女性としていつまでも美しくいたいですね。見た目は年齢とともにしわも出てきますし、しみも出てきますが、たるんでもきますけれども、衰えないのは所作といいますか立ち振舞いですね、そのようなものは衰えることはありませんので、逆に気にしましたらどんどんアップしていきますので、女性の方は高級クリームをつけるよりもそちらの方を見直していただきたいと思いますね。例えば、スーパーなどでお買い物をしますと、例えば、牛乳を買います時に賞味期限のなるべく長いものを買いたい、その気持ちはよくわかるんですね。でも、あまりに奥の方にずっと手を伸ばして漁っている、その姿というのは同じ女性としてあさましいなど。そこまで手を伸ばして奥の方のものを取るのではなく、ご自身が使うのが先でしたら仕方ないと思うのですが、今日、明日ぐらいに使う予定があるのであれば、ちょっと手前の方から取ってあげた方が、そのスーパーにとっても後ろの方から取ってしまう人ばかりだと先の方のものは余ってしまいますので、それが全部、破棄に繋がってしまいますから、ご自身の家庭だけを考えるのではなく、ちょっと全体を考えていただいて、私はこ

れ、今日使う予定だからそんなに長くなくてもいいわと思つたら、ちょっと世の中に貢献しているような思いで手前のものから取っていただくと言うほうが素敵じゃないかなと思いますので。

**MC:** 確かに、日持ちがするものだから良いということで、奥のものから取つてもそのお店からすると違いますものね。全体像を考えられる事によって心にもゆとりもできますし、買い物をするにも美しさは大事ですね。

**田丸さん:** 買い物はできますね。野菜などを何度も自分の手でべたべたとさわって商品を比べているのもちょっとなと、思いますし。

**MC:** ゆったりした心を持つことで随分とそういった心の余裕というか、このような流れが循環されているのだなと考える余裕もできますよね。女性として3Rへの貢献の仕方は田丸さん自身、どのように考えられていますか？

**田丸さん:** エコバックですね、どこもビニール袋が有料化になりまして、今まではビニール袋に入れて帰ってくるのがあたりまえでしたが、今はエコバックをお持ちになる方がずいぶん増えました。エコバックはほとんどビニール製、折り畳みで小さくなると思うのです。私はエコバッグの代わりに風呂敷を使います。ちょうど今、風呂敷を持ってきているのですが、このように折りたたむとペタンコになりますので、エコバッグより、がさばりません。今、風呂敷は結構流行ってまして、割と可愛い風呂敷が売っています。お土産なんか貰われる方もいらっしゃるし、また、家に多分眠っている風呂敷がありますよね。その風呂敷を使って、かばんの中や車の中に風呂敷を何枚か入れておきまして、スーパーにいったらエコバックにします。とっても簡単にバックが出来ます。出来ますと皆様からほめていただけるのですね。素敵ですね、風呂敷でそんなふうのできるのですね、なんでもないので。



## ステージトークショー②

**MC:**風呂敷は大きくて包むのに大丈夫なのかな、物入れられるのかなというのがあるのですけれども。

**田丸さん:**日本人は素晴らしいなと思います。綿百パーセントの風呂敷が一番いいと思うのですが、ビニールよりもずっと丈夫です。今からエコバックの作り方をお見せいたします。これを裏側にして三角形にします。こここっちを結ぶだけでいいのです。これを表側に返して、今結んだところを中に入れてあげます。そうしたら、これでバッグの完成ですね。これでスーパーで買った物をどんどんこの中に入れて、最後ここを二回結んであげます。二回結びましたら、ほどけませんし、色々な形になりますので大根など入りますし、かなり重たいものでも破れることはありません。エコバックは、バックだけではなく、ちょっと雨が降ってきたらかけるとか、おひざ掛けにするとか、小さなお子様がいらっしゃる方は、お昼寝しているときにかけてあげるだけでも寒さよけになりますし、なんでも使えますので風呂敷は本当に一番のエコだと思います。

**MC:**布だと重いものを入れても手が痛くなりませんか。そのほかの形などあるのですか？

**田丸さん:**風呂敷の本を買くと、色々なバックの作り方などありますね。簡単ですので、これからやってみてご覧になられたら、ちょっと風呂敷の使い方の面白さや便利さが分かっていただけるのではないかなと思います。

**MC:**そして、風呂敷の中から出てきたものが本ですよ。

**田丸さん:**これが、10月23日に初めての著書を出版いたしました「愛される所作」ということで、この中に食べ物を大切にすることですとか、バイキングの取り方など書かせていただいております。後、お茶ですね、私、エコの中でやっぱりお茶の葉からお茶を入れるということをお教えているのです。それは、私の子供達だけではなくて、うちの販売のスタッフにも教えていることなのですけど、そのことも書かせていただいております。後、女性としての振る舞い方、あり方みたいなことを書かせて頂いております。私今日、上の喜久屋書店さんに行きましたら、一冊だけ売ってありましたので、もしこの中で喜久屋書店さんにて買っていただきましたら私、まだまだ残っておりますのでサインをさせていただこうと思っております。

**MC:**田丸さんが色々な活動をされている中で、この本を書こう、伝えたいと思った原動力はなにかありますか。

**田丸さん:**それは、今、はしたないという言葉、最近、電車の中でお化粧をするのが話題になりましたが、結局、そういう女性、それがなんともない、みっともないと思わない女性が増えてきていますので、それをちょっと違うのだよということを書きたいな、若い女性達に主に伝えたかったことなのですが、実際に書きますとあの結構男性の方が参考になるっておっしゃってくださって、新人教育ですとか、たぶん基本的なことなのですね。私は、マナーの先生でもありませんし、所作、礼法の先生でもありません。私が自分の商売を通して書いた本ですので、皆様方の日々の生活の中にお役に立っていただけるのではないかなと思います。

**MC:**ちゃんと始末ができる人になれるようなことが書いてあるということですよ。ありがとうございます。田丸さん、今日たつぷりと色々なお話していただいたのですが、今日は3Rのイベントということで、リデュース、リユース、リサイクル、田丸さんご自身の生活の中でこのようなことを心がけています、また、ちょっと今日から変えていこうという何かはありますか。

**田丸さん:**私も出張等が多いものですから、買った食材をついついその予定していたのだけど、仕事が長引いてしまって今日は夕食が作れなかったということがあるので、その時間配分ですね。帰ってから作るのではなくて、ちょっと前日の仕込みをしておくとか、何か食材を無駄にしないようなタイムスケジュールを組みたいな一とは思っていますね。

**MC:**時間の無駄がなくなると、そのような余計なものも出てこないですね。ありがとうございます。ゴミの循環だけではなく、自分のこともしっかりと循環させていくことで環境にもつながりますね。ありがとうございました。北海道にはよくいらしゃいますか？

**田丸さん:**札幌までは、札幌の大丸さんに入っている関係で、それでも三年に一回ぐらいですね。小樽は二十四年ぶりにまいりまして、石原裕次郎記念館に母が大好きだったものですから、母に連れられてきたことがございます。とても懐かしい街ですけれども。

**MC:**昨日も回転寿司を召し上がって、今日もおいしいものを召し上がるということで、是非、北海道を堪能されて、たくさん食べて最後まで残さず食べることができそうですね。

## ステージトークショー②

**田丸さん:**もちろんです。今、目の前の昆布屋さんで昆布をいっぱい買ってきまして、回転寿司では生のイワシのお寿司をいただきまして、大変、おいしく頂戴いたしました。

**MC:**たくさんの方々に北海道の海産物を食べていただくために、私達も海を汚さないように気を付けたり、色々頑張りますので、是非、また北海道にいらしてください。そして皆様、田丸さんのお菓子なのですが、大丸札幌店で購入することができますので、是非、季節の意味合いですとかお店の方に尋ねたら教えていただけますかね。

**田丸さん:**大丸さんの素晴らしいところ、大丸百貨店は、もともと京都の百貨店です。十五年前に北海道の地に新しく入るにあたっては、北海道の方たちに何か役に立ちたいということで、大丸百貨店の中で廃棄の食べ物ですね、食品の廃棄をリサイクルする大きな機械を二台入れられまして、毎日五百キロの廃棄物を全部、有機栽培の畑の肥料に変えてらっしゃるのですね。それでお野菜を農家の方に作っていただくようという取り組みをなさっています。

**MC:**私達、個人レベルでもそうですが、企業などが働きかけることによって、私達の意識もあがっていきますし、このようなところで買い物がしたいなという気持ちにもつながります。

**田丸さん:**私達の見えないところで環境を大切にされている方がたくさんいらっしゃる。一生懸命取り組んでいらっしゃる。だから、私達もちょっとでもそれに何か貢献できたらと思いますね。

**MC:**お菓子屋さんでしたら、お菓子の美味しさだけではなく、伝え方も本当にたくさんあるのですね。是非、田丸さんにも和菓子の美味しさはもちろんですが、それ以外の美味しさの意味を更にもっと伝えていただければと思います。本日はありがとうございました。田丸みゆきさんでした。どうぞ、おおきな拍手でお送りください。

田丸みゆきさんの「愛される所作」という本も出ておりますのでお気になった方、手にとってご覧下さいませ。この後なのですが、3R推進北海道大会、この後のステージは、午後3時からスタートさせていただきます。会場内のワークショップの出展の形をお迎えいたしまして、ご紹介させていただきます。この後のお時間も、夕方5時までとなっております。会場内でワークショップ、アンケート、クイズラリー、皆様ご参加いただいていますか。素敵なアクションをして3つの3R学びながら、楽しくこの会場でお過ごし

ください。それではこの後のステージは、午後3時からのスタートです。





## 出展者PR②

ハンドメイド作家            Kao さん  
整理収納アドバイザー        佐藤 真美 さん

(コーディネーター:高嶋 伴子氏)



**MC:**そして、ここからのお時間なのですが、3R推進北海道大会、各コーナーでPRを頂いております方をご紹介します。ハンドメイド作家のKaoさん、そして、整理収納アドバイザーの佐藤真美さんです。どうぞステージへお願いいたします。ここからお迎えするお二人なのですが、実はカプセルでオーナメント、カプセルでガチャ楽器というのを会場内で皆様にご紹介していたのですが、残念ながら、もう人気で終わってしまったのですね。どんなものを作っていたかと言うと、会場内でクイズラリーを皆様に使っていただき、参加いただいたら最終的にガチャガチャをしていただいたのですね。ガチャガチャで出てくるガチャポンのケースを使って、中にいろんな雪だるまを入れ、または、鈴を入れたりとかして、楽器オーナメントを作っていたのですよね。見ると可愛いクリスマスのオーナメントもありましたし、人気となりました。3R推進北海道大会は、札幌の会場でも行いますので、後ほど、そのPRも是非、お願いいたします。まずは、ハンドメイド作家のKaoさん、ステージ向かって右側です。宜しくお願い致します。ハンドメイド作家ということで、何を作っていらっしゃるのでしょうか？

**Kaoさん:**皆さん、何だか分かりますか。これ、実はペットボトルから出来ています。これはエコキャップで出来ております。普通なら捨ててしまうものでも、ちょっとした工夫でこのようなものが作れます。こういったリユースハンドメイドを行っています。

**MC:**ハンドメイド作家として活動する時に、色々な作品作っていると思うのですが、今あるものを利用できたらいいなというのを普段から思っていますか。

**Kaoさん:**それは常に持っていますね。

**MC:**創作活動をするときに、新しいものを買うよりは、今あるものを変化させるということの方が楽しさはあるのでしょうかね。

**Kaoさん:**家にあるものでも、なんでもこういうちょっとした工夫で飾り物だったりができるので、是非皆さんにも作って頂きたく思っております。

**MC:**ペットボトル以外のものですか、どんなものを利用して作品にされているのですか？

**Kaoさん:**あちらにも置いてありますが、さば缶など空き缶を利用して飾り物を作っています。タイルはですね、ちょっと使わなくなったタイルを利用したりしています。

**MC:**日常にあるものを使って、様々な作品を作ってらっしゃるのですね。今日は、あのコーナーに行けば、色々なものを利用した作品を見ることが出来るのですね。作り方は詳しく教えてもらうことはできるのですか。

**Kaoさん:**私は、伊藤整理収納店という、札幌で姉と小さなお店を営んでおまして、そこでも月、一、二回ほどワークショップなどもやっております。

**MC:**ありがとうございます。さあ、そして真ん中におられますのは、整理収納アドバイザーの佐藤真美さんです。宜しくお願い致します。整理収納アドバイザーということは、整理収納が素晴らしく出来るということですよね。

**佐藤さん:**そういうことではないのですが・・・整理収納の良さを伝えているという、自分も頑張っている、そんな状況です。

**MC:**そして、佐藤さんが手にしているのが？

**佐藤さん:**牛乳パックを土台として、自分の好きな布をはって、好きな大きさや形に出来るというわけです。

**MC:**大きさ、形、大事ですね。既製品は本当はしょうがないから、その形に一番近いもので買ってしまいう事がありますよね。

**佐藤さん:**お片付けの基本は入れ物に合わせるのではなくて、入れたいものに収納用品が合うのが理想なのですよね。

## 出展者PR②

**MC:**それ物が増える原因ですね。

**佐藤さん:**入りたいものが決まってから、出しやすい収納を本当は考えたいです。かごを買ってきて入れるものを探したいなどあると思うのですが、本当は入れるものを決めてから、ここに合うのはどのようなものか決める。その時に、中途半端に合わない収納用品だとつまらないので、牛乳パックとか空き箱だと、自分の好きな大きさに変えられるので、ピッタリの仕切りとかが出来るのです。

**MC:**キッチンの小物、こういったものもありますけど、その過程で使う特徴のある大きさがありますものね。

**佐藤さん:**長さも高さも変えられるし、栄養ドリンクの箱など。

**MC:**丈夫ですよ。何かに使えるかなと、それともう一つ持っているのは何ですか？

**佐藤さん:**子供向けのおもちゃなのですが、これは二面ありまして、全部緑か全部銀色かに揃えて正方形にするというパズルなのです。意外とお子さんは既製品よりも、手作りのおもちゃの方が割と長く使ってくれたり、飽きたりすることも早いのでちょっとお試しでね。自分で作った物でやると買い物の失敗もないです。

**MC:**これは正方形に全部することが出来るのですね。

**佐藤さん:**このように納めると全部、銀色になります。更に開いたりぐるぐる回したりすると、緑の箱が出来る。

**MC:**自分で作れる一面体のルービックキューブみたいです。

**佐藤さん:**これは、牛乳パック一本ありましたら出来ますので、これでしばらく遊べます。

**MC:**後で、あのコーナーで遊ぶことが出来るのですね。ありがとうございます。普段、活動されているお二人なのですが、今日は、カプセルでオーナメントもカプセルでガチャ楽器も終わってしまったのですが、12月10日には3Rの推進のイベントが、またイオン札幌発寒でありますよね。その時のピーアールも一人ずつお願いします。

**Kaoさん:**12月10日にも、今日も行いましたガチャカプセルとオーナメント用意してお待ちしておりますので、是非皆さんご興味を持ってきて頂けたら嬉しいです。

**佐藤さん:**私も同じく、その場所で手伝いもしてお



りますし、こちらの収納用品も、実際に見て触っていただくことができますので、楽しみにしててください。お願いします。

**MC:**ステージ向かって左手側の柱のところですよ。あの可愛いカップケーキがペットボトルの蓋で、また、ちょっと難しそう一面体のルービックキューブも是非、皆様トライしてみてください。ハンドメイド作家のKaoさん、整理収納アドバイザーの佐藤真美さんをお迎えいたしました。ありがとうございました。Kaoさんに今ご紹介いただいたのが、ペットボトルを利用したアート、作品をご紹介いただきました。



## 出展者PR②

協栄産業株式会社

石寄 洋樹 氏

(コーディネーター:高嶋 伴子氏)



続いては、ペットボトルの自動回収機のデモ機の展示ご紹介いただきます、共栄産業株式会社の石寄洋樹さんです。どうぞステージにお越しく下さい。今日は、ペットボトルの自動回収機、ご紹介いただいておりますが、今、ステージちょっとご覧になっていたかと思うのですが、色々なものをさまざまな商品に再利用する方、本当に多いですよ。ペットボトルの商品もペットボトルにいらぬ革を貼り付けて、さまざまな作品が出来ていました。その中で、佐藤さんはペットボトルを回収して再利用するまでの手前の一番大事な部分ですよ。先程の作品が仕上がるのにも、飲んだペットボトルは洗って綺麗にしないとイケないんじゃないですか。そのような部分も改めてご紹介させてください。ペットボトルの自動回収機なのですが、今日、会場に持って来て おいていただいております。どんな機械なのでしょう。

**石寄さん:** 皆様はお飲みになったペットボトルを、ラベルとキャップをはずして、中を洗って自治体の回収、またはスーパーの店頭を持ち込み、リサイクルに協力して頂いていると思います。ペットボトルは、からになると、空気を運んでいるようなものです。そのまま運ぶと非常に運送効率が悪くなります。この機械を使って潰すことで輸送効率を高めることができ、ペットボトルの輸送の回数を減らすことでCO<sub>2</sub>排出を抑制することが出来ます。今回お持ちした機械は環境にやさしい、効率的なリサイクルを目指した機械です。

**MC:** ペットボトルは意外と硬さがありますものね。

**石寄さん:** ペットボトルは、一回、踏んでつぶしてもあまりつぶれないでもとに戻ってしまいます。

**MC:** 意外と硬いのと、ちょっと弾力もあるのですよね。今、石寄さんが言ったように、容量を本当にとりますよね。ペットボトルが空になった時に軽い割には、ゴミ袋の容量をとるのでゴミ袋のお金もかかるし、意外と邪魔者。中身だけは美味しいですけどもね、ペットボトルをぺっしょんとさせて回収する機械ですね、この機械を開発された経緯や

会社の思いとはあるのですが。

**石寄さん:** 実はペットボトルの回収機というのは、北海道にはあまり見かけないかもしれませんが、関東のほうではこの五年ほどで設置が多くなりました。当初は非常に高価であり、ランニングコストも高く、最終的な再利用の価格に転嫁されてしまいます。その影響で再利用の範囲が狭まってしまうので、安価で導入しやすい機械を作り直そうというのが開発の主旨です。

**MC:** リサイクルするのに大きなお金がかかるのでは、循環させるということでは痛い話ではありますよね。安価でしっかりと潰すことができる機械が誕生したということで、北海道にはあまり入っていないということなのですが、関東のほうではどう行った場所に置いてあるのですか。

**石寄さん:** 自動回収機が置いてある場所は、スーパーマーケットが一番多いです。買い物のついでにペットボトルを機械にかけてつぶして、リサイクルの協力のお礼に、設置先のお店のポイントももらって帰るといのが、流行っています。

**MC:** ポイントがつくというのが大きなポイントですね。生活で出るゴミの中で、例えば再利用出来るものは何と問いかけると、ペットボトルが一番出てくるぐらい、皆さんが知っているものかと思うのですが、ペットボトルって実際どんなものに再利用されているのですか。

**石寄さん:** ペットボトルはこれまでに卵パックや建築資材など、色々なものに生まれ変わってきました。皆さんの協力や、リサイクル技術の向上で、より高度なものに再生できるようになってきています。最近では、使い終わったペットボトルからペットボトルを作ることが出来るようになってきました。同じものを再生できることから、水平循環といわれています。リサイクルでは違う物にしか生まれ変わらなれないと思われている方がいらっしゃると思いますが、水平循環によって、石油をより使わなくて済むようになりました。



## 出展者PR②

**MC:** それ一つの商品、物が出来上がって同じものがずっと使いまわせば、素晴らしいことですよ。なんとなく先ほどもおっしゃったようにリサイクル、再利用すると一段階ちよつと落ちるような感じがあるというのは、皆様、そのようなイメージ持っていますよね。ペットボトルをペットボトルで再生するというのは、最初からの目的でもあるのですか。

**石寄さん:** 社長は最初からボトルからボトルへ戻す発想を持たれていましたが、実際に始まったのは、2012年からです。ボトルに戻す技術を開発して2012年から大手飲料メーカーさんに採用されて初めて日の目を見ました。

**MC:** まさか、ペットボトルがペットボトルになるとは誰も思わないでしょうね。同じ物もそうなのですが、ペットボトルがどんなものに再利用されているのかなど、何かご紹介できるものはありますか。

**石寄さん:** 今年初めてヨーロッパのサッカーチームのユニフォームに採用されたというのが、一番わかりやすい有名な話かもしれません。

**MC:** マンチェスターユナイテッドのユニフォームに採用されたということは、それなりにスポーツをプロでされている方だから、基準も高いわけじゃないですか。そういった基準をクリアされた繊維にもなるということですよ。

**石寄さん:** ペットボトルからのリサイクルでは、日本で初めて採用されました。

**MC:** ペットボトルの可能性は、これからどんどん広がるのではないですか。どんなふうに広めていきたいという何か思いはありますか。

**石寄さん:** 今、ペットボトルは年間六十万トン以上生産されていますが、国内にとどまるペットボトルは三十パーセントくらいです。

**MC:** 私、五十パーセントくらいは回収されているのかなど。

**石寄さん:** 回収自体は九十数パーセントされていますが、ほとんどが輸出されてしまいます。

**MC:** 国内に戻ってくるのが大事なのですね。

**石寄さん:** 効率的なリサイクルと、水平循環できる技術があってこそ、国内にとどまるペットボトルが増え、皆様方の理解と環境貢献が根付くことで国内循環が出来上がり、輸出で海外に出ることを減らせます。ペットボトルからペットボトルに戻すことを多くの方にご理解いただき、一緒に環境に

やさしいリサイクルをしていきたいと考えています。

**MC:** 自給自足という言葉があるかどうかわからないですけども、食品には自給自足という言葉があって、商品にも自給自足が合うような言葉があるのですか?循環型社会になっていくのでしょうか。

**石寄さん:** 環境にやさしいリサイクルといわれるのが循環型、水平リサイクルです。リサイクルするものと同じものを作り、質を落とさないことが一つのテーマになっています。ボトルからボトルのような、石油を使わないリサイクルが、食品で言われる自給自足と同じことだと思います。

**MC:** 私達が飲んで、食べた、ペットボトルのゴミが自分たちで出たゴミなのに、それが日本国内で処理されていないというのは、ちよつと悲しい現実なので、もっともつこの機械が色々な場所に置かれるといいですよ。最後に、改めて機械の今日は体験もしていただいているということで、改めてPRをお願いします。

**石寄さん:** まだ、北海道では機械の導入は少ないようですが、皆さんにご協力いただき、ラベルとキャップを外し、洗っていただいたペットボトルを多く集め、自動回収機で潰して北海道で出るCO2を減らし、また、北海道で集めたものを、再び北海道の商品として皆様方のお手元に戻せるように、頑張りたいと思っています。

**MC:** ペットボトルを潰して輸送しやすくするというのが、どのようなことにつながるかということも、あちらのコーナーでおそらく説明していただけるかと思えますので、是非、この後のお時間もよろしく願います。協栄産業の石寄洋樹さんでした。ありがとうございました。会場内では、3つのRをご紹介しておりますが、様々な商品の例えば、ペットボトルのリサイクル、新たな商品、作品になりました。そして、ペットボトルがリサイクルされてどのようになるのか、3つのR、リデュース、リユース、リサイクルをご紹介させていただいております。この後もまだまだ続きます。この後は、3時30分から整理収納アドバイザーの永井友子さんをお迎えしたステージイベントとなっておりますので、是非お付き合い下さい。この後、3時30分からのスタートです。

## ステージトークショー③

整理収納アドバイザー

永井 友子 氏

(コーディネーター:高嶋 伴子氏)



**MC:**皆様、今日はウイングベイ小樽にお越し頂きまして、誠にありがとうございます。そして、平成28年度3R推進北海道大会にお越し頂きまして、誠にありがとうございます。さあ、ここからのトークイベントなのですが、整理収納アドバイザーでファインスマイル代表の永井友子さんをお迎えいたしました。よろしく願いいたします。先程の各コーナーのPRで、永井さんと同じく整理収納アドバイザーという方がステージに登場いたしました。この整理収納アドバイザーはどんなお仕事なのですか。

**永井さん:**片付けの講座を開いたり、困っている方のお宅におじゃまして、一緒に片付けのレッスンや作業をしています。

**MC:**今日は、片付けのアドバイザーもそうなのですが、コーナーで片付けの時にご利用するということか、ちゃんと再利用できるようなものをみなさんにご紹介いただいているのですけども、今日どうですか?いろいろな方に参加いただいて。

**永井さん:**たくさんの方にご利用いただきまして、「これは何から出来ているの?」「牛乳パックで出来ているの~!」ということで、すごく驚きいただきましたけれども、場所によってはすごく有効です。防水加工されていますからね。牛乳パックは、冷蔵庫の中の物は、液漏れしてしまうものもありますが、ちゃんとキャッチしてくれます。汚れたらまた別の牛乳パックで作ればいいのですから、エコですよ。

**MC:**ペットボトルとか牛乳パックって、本当に優秀ですよ。そんな再利用も含めて、イベントで色々とお話していただいているのですが、整理収納アドバイザーと、さらに、クリーニングデイというイベントでしょうか、団体でしょうかをやってらっしゃるそうなのですが、ご紹介いただけますか。

**永井さん:**クリーニングデイ、あちらにのぼりが何本か立っておりますけれども…。

**MC:**すごくかわいらしいのぼりで、「クリーニングデイ」と書いてあって、その下に色々な絵が描かれていますよね。

**永井さん:**いろんな雑貨をモチーフにしたロゴになっていて、これは、北欧フィンランドからやってきたアップサイクルマーケットやイベントのものです。

**MC:**イベント名称が「クリーニングデイ」なのですね。

**永井さん:**「クリーニングデイ」というのは、「洗濯物の日ですか?」とよく聞かれるのですが、クリーニングという言葉は「物を整理する」と言う意味合いもありますから、家の中のをものを整える・見直すといった、そんなような意味合いで「クリーニングデイ」の名称が使われています。

**MC:**永井さんご自身は「クリーニングデイ」に関わったり、整理収納アドバイザーの資格を持つようになったり、永井さんご自身のきっかけって何ですか?

**永井さん:**きっかけはですね、私自信が苦手だったのです、片付け。

**MC:**そんな方がアドバイザーになれるのですか?

**永井さん:**なれたのです。だから、苦手な気持ちがかかるアドバイザーとして、苦手目線でお伝えしております。

**MC:**最初は、自分でも整理、収納が凄く苦手で、でも、片付けなきゃと思っていて、自分で勉強されてアドバイザーになられたのですね。

**永井さん:**そうなのです。聞いたぐらいで片付けられるなんて思っていませんでしたので、そんな資格があるならちょっと話を聞いてみようかと半信半疑で講座を受けに行きました。そこで「実際に順番があるんだ」「コツがあるのだな」と知りました。でも、その時点でもまだ、片付けられるようになるとは信じてませんでした。帰ってきて実際に習った通りにやってみて、綺麗になりました。でも、片付けで綺麗になるのは、大体その時だけ。その後、崩れてしまうと段々ちらちらってくるものなのですが…。理論通りに片付けた

## ステージトークショー③

場所だけちからなかったのです。それで、驚きまして「私にでも出来る、お困りの方にも正しくお伝えすれば、誰でも出来るのだ」ということを伝える仕事というのをしていこうということで勉強を進めました。

**MC:**確かに、部屋の掃除整理収納は、誰もがやらなきゃいけないもので、あえて習う、教えてもらうとは思いませんよね。出来ると思っていますから。

**永井さん:**誰でも出来る来るのですよ。皆さん、物を使って暮らしていますよね。服も着ていますし、なので使ったものをしまふ。それが片付けということなのですが、全員が出来ることなのですよ。

**MC:**でも、私は出したものを戻せないのです。なんでと思うのですが。

**永井さん:**戻しづらい場所にその場所を決めていらっしゃるのか、それよりも大切なことがあるからそこでは戻しづらかったとか、そのような事はあると思います。子育てされている方とか介護なさっている方というのは、それを元に戻すよりも子供に関わったり、何か用事をしたりということで、優先順位がそちらの方が低かったら、後回しになるという事があると思うのですね。1日の中で、どこかでそれを元に戻すというところを心がければ、綺麗を続けることが出来るのです。

**MC:**コツがやはり自分ではわかりませんので、それを気づかせてくれるということで、アドバイザーはすごく大事なかもしれないですね。

**永井さん:**本当にきっかけをお渡ししているような仕事だと思っています。意識をちょっとあげたりとか。

**MC:**先程の話を聞いた時に、どうしても片づけようと思ったときに、まず可愛い収納からと通販の雑誌を見てみたり、家具屋さんに行ったりとかあるのですけれども、そうではないですよ。

**永井さん:**結局、ものが増えると、居る場所が狭くなってしまう。買って使わずに買ったところで満足してしまふ、そこから先に何もしないで終わってしまったら……。また、それをどうしようかと、考える種が一つ増えることになりますよね。

**MC:**考えを逆に考えると、違ってくるのですね。永井さんご自身は整理収納アドバイザーを取ってから、このクリーニングディというイベントに参加された?

**永井さん:**片付けを進めていく中で、使えるものがゴミとして出されているというところに関して心が

傷んだのですね。部屋は片付いて、すごくお客様は喜んでいらっしゃるのですけれども、まだまだ使えるものがゴミ袋の中であって、なんだかなと思っていて、映画「365日のシンプルライフ」という北欧の映画を知りました。男性の方がたくさんの物のある生活が嫌になってしまふ、全てを一旦、倉庫に預けて一日一つだけ、そこから必要なものを持ってくる。365日物は買わないというのを一年間続けるという内容の映画です。一日目は真っ裸からスタートですよ。一日目は裸で一つ目のものを倉庫に取りに行かなければいけない。何を取りに行きますかね?裸の状態・・・、まず一つ目は下着でしょうか。一番大事なものを、すごく考えますよね。

**MC:**全てを隠せるコートかなとも思いますし。

**永井さん:**人それぞれの一番目があると思うのですが、そのような映画がある事を聞いて、これは見てみたいと思ったのですね。でも、札幌では上映の予定がなかったので、自主上映会を開きました。その中で「クリーニングディ」というイベントがあるという事を知り、2回の上映の間に物々交換会をやってみようかしらと始めたのが始まりになります。

**MC:**整理収納片付けについてくるものって、やはり、何かを捨てるということも必ずついてくる。

**永井さん:**自分に必要のないものを出すということです。ゴミとして出すのか、使える人に渡して出すのかというのは、気持ち的に大きな違いがあると思います。

**MC:**アドバイザーとしてやってらっしゃって、更に、クリーニングディのイベントに参加するということに発展されて、何か大きく考えが違ってきているということはありますか?

**永井さん:**自分に必要なものは何なのかということを考えるきっかけ。後は、絶対片付けられないと思っていた方が、誰かに使ってもらえる、いかせるならば一歩踏み出すことができるという大きな心の変化を目の当たりにして、どんどんですね、イベントで交換会をするのはもちろんなのですが、日常的に必要なものは誰かにいかすという考え方で皆さん同志で交流できたら、コミュニケーションも生まれますし、家の中もすっきりして、自分らしい暮らしができますので、本当に良いきっかけになりますよね。

**MC:**片付けをしたいのに、何かをしたいと思った



## ステージークショー③

時に、今までのステージにあがっていただいたみなさんが言っていますが、片付けるイコール捨ててしまう、この捨てるという言葉自体がマイナスな感じがします。捨てるぐらいなら、誰かに使ってもらいたいと思いますね。

**永井さん:** 渡せる人がいたり、渡せる場所があったりということを知ること、後は、行動してみるというのが第一歩だと思いますね。

**MC:** 「クリーニングディ」というイベントなのですが、北海道内でどんなふうに活動されていますか？

**永井さん:** 全国一斉開催の日が一年に二回、5月と8月にありまして。

**MC:** 全国一斉に同じです日にやるのですね。

**永井さん:** フィンランドでも同じ日なのです。だから、世界一斉なのです。当初札幌は札幌一か所だったのですが、今年の8月は札幌の他、旭川そして砂川、北広島、帯広と北海道内に広がって一斉開催いたしました。

**MC:** 開催している時はフリーマーケットのような、市場のような状態になっているのですか？

**永井さん:** 会場により様々でございまして、今日何枚か写真を持って来たのですが、これがフィンランドでの開催の様子なのです。大通公園のような屋外の公園で、フリーマーケットをしているところもあれば、家の中で不用品を持ってきて交換する、読み終わった本、壊れたものを直す会というのも、「クリーニングディ」の中で行っている会場があります。

**MC:** どうしても壊れたものを捨てられないのですよ。思い出があって、直す人がいれば治したいのですよ。

**永井さん:** 例えば、おもちゃを直すという会場もあったので、おもちゃを直す博士がいて、直してもらおう。家の中で端切れ布とか手放せないものとか、そういったものを皆さんで持ち寄り、これで何か作りましょうということで、これは紐を編んでいるのでしょうかね、(写真を見ながら)このような端切れ布を持ち寄って、別のものを作るというイベントも、もちろんできます。今日のイベントで提案のワークの材料はペットボトルです。資源ごみに出してリサイクルできるものですけど、それを楽しむために素敵な雑貨に作り変える。それも、今年の「クリーニングディ」の中でやったワークショップです。

**MC:** 古布とか端切れ布でしか出せない色合いあ

りますよね。

**永井さん:** 後は、出荷できない規格外のものを使ってお料理会をしたり様々です。

**MC:** 安く手に入りますしね。年に二回というのは、何日と何日とか決まっているのですか。

**永井さん:** 5月の最終の土曜日と、8月も同じく最終の土曜日です。今度は、来年の5月の27日に予定しています。でも、日にちにかかわらずやろうと思ったらいつでも開催しても良いことになっています。クリーニングディジャパンのホームページからご一報いただければ、いつでもどこでも開催することができます。

**MC:** クリーニングディジャパンでは、うたってイベントをすることもできるのですね。

**永井さん:** もし、一般的にたくさんの方に来てもらいたいというのがあれば、クリーニングディジャパンのホームページにそのイベントのURLから飛んで検索し登録することもできます。是非、こちらおこしになっている皆様、二階、三階、四階、上の方の席の方もいらしゃいますけれども、次回は小樽でやっていただきたいと思います。その土地ならではのものが、循環していくのかなあとと思うと広がります。

**MC:** 私が気になっていることなのですが、「365日のシンプルライフ」一日一つずつ必要なものを取って行って、最終的にはどんなふうになるのか？

**永井さん:** 今、DVDにもなっていますから見ていただきたいな。

**MC:** 意外な結末なのですか？それとも、見終わったあと、上映会を開きたいとなった映画の生レビューをここで。

**永井さん:** 一日一つだけということで、持っていく中で、主人公の方は葛藤するのですね。途中でもう何も取りに行きたくないですとか、もしくは、物が欲しくて、欲しくてというふうに自分の思ってもみなかった感情に驚きながら、でも、人生の中で必要なものを見出していく。暮らしていくのに必要な個数は、大体これぐらいだということは解ったと言っています。いくつぐらいだと思います？

**MC:** 最初の一日目、どうしよう、どうしますかと聞かれた時に、本当に出てこなくて、365個はないのではないかと。

**永井さん:** そうなのです。そこに主人公も気付く。

## ステージトークショー③

**MC:** 自分の部屋を思い浮かべてみると、365個以上の何かはありますよね。

**永井さん:** ちょっとネタばらしすると、だいた100個くらい。これは、講座の中でもお伝えしているのですが、100から150アイテムくらいあれば暮らして行くのには大丈夫と言われてます。残りの数は、何のものなのでしょ、それは、自分の暮らしを豊かにするものですか、お気に入りのものとかそういったものなのですね。

**MC:** その豊かにするものの余力が、より豊かであればあるほど、良いものを手にすることが出来ますよね。

**永井さん:** なんでも家の中に入れるのではなくて、本当に自分の気に入ったものを選び置くだけで、豊かになりますよね。

**MC:** そう考えると、本当に整理整頓は難しいなと考えていたものがちょっと、このような豊かなものが自分の心にも手に入るのだったら、やってみようかなと思いますね。今日は、たくさん聞いている方がいらっしやるので、一番の片付けのコツって何でしょうか？

**永井さん:** 片付けるコツ、皆様聞いてくださいよ。まず、必要なものを選ぶところなのですけども、要る要らないというふうにわけたら全部要る、要る、要る、要るになって手放せるものが何もないという経験ありませんか？ちょっとそこは置いておいて…。分けるときに、「使っているのか使っていないのか」、「今、使っているのか、今、使っていないのか」で分けていただきますよ。そんな変わった方法ではないのですけれども。

**MC:** そんなことと思われるかもしれませんが、それは大きな違いですよ。

**永井さん:** 意外と使っていないのにそこにあって、それが使いたいものを邪魔しているというふうに考えてみてください。

**MC:** 使っているものイコールいるものではないですよ。

**永井さん:** 目安にするとしたら、一年もしくは今年使ったかな、去年使ったかなということで区切ってみて、今使っているものだけを使いやすいように収める。それだけで暮らしやすくなりますので、年末に向けて、まず、使っているものだけにしてみる。後は、あれもやりたい、これもやりたいと欲張ると何も意外と進まなくなってしまうので、やりたいことをまず書き出してみる。その中で、優先順位を

つける。色々なことがやりたいけれども、まずこれをやらなきゃということと、出来たらやりたいなということがあると思いますので、どうしてもやりたいという優先順位をつけて、それ今年中に全部やると思わないで、何番目までやればいいのかと考えます。そうすると出来ない、やれないということで自分を責めてしまいがちになるのですが、やる事が解っている、今年やるのはここまでと自分が決めるということで、すごく楽になりますし、責めずに進むことができます。なんとなくやらなきゃなあと思っているところを書き出すことによって、具体的にやるというところで、意外といっぱいやらなきゃということで、何かに追われるような気持ちになっている方にとっては、これだけだったのだなということですごく心にも余裕ができますので是非。

**MC:** アドバイザーをやられていて、みんな同じポイントで悩んでいるなという部分って何なのですか？

**永井さん:** 手放せないというか、何を持っていたいのかわからないという方は、結構おられます。何をどうしたらいいかわからないという。

**MC:** 何をどうしたらいいかわからないという、漠然とした場合のアドバイスは、どんなポイントですか？

**永井さん:** 片付けが終わったその部屋でどうしたいと思われませんか？片付けたその先をイメージしていただきますね。探し物もしなくて寝転がれるような部屋にしたいと思っているのだよということが出てきたら、そこに行くためには何をしたらいいかなというところで見えていくとすると、ちょっと物が多いから少し無くなきゃいけないというところで、まず、使っているものだけにしてみましょう。使っていないものは、その時点では捨てなくてもいいですから、まず、分けて使いづらいところにも置いて暮らしてみましょ。本当にそれが無くても暮らせるねとなったら、そのちょっと待ってよ一のところから、取っておくのか、もしくは、活かせるものはどこかに活かすのかというところを仕訳していくということ、何かしたいことを書き出して行ったりすること。

**MC:** ただ、しようとしていくよりは、なりたいことを書き出してイメージしていきたいですね。

**永井さん:** 片付けをゴールにしてしまいがちなのです。片付けたい、片付けたい、片付けたい、永遠に片付けたいなのですけど、片付けた先にやりたいことしたいことがあるよねということ。

## ステージトークショー③

**MC:** 永井さんの家は整理、整頓ばっちりしている家なのですか。

**永井さん:** ははは、うちは子供が三人おまして、一応、みんな、片付けはするのですが、やっぱり乱れます。ただ、置く場所が決まっていますので戻すとすぐに片付けることができます。片付けの時は元の位置に物を戻しましょうと声かけをして、そんな優しくは言わないのですけどね・・・。

**MC:** お子さんが片付けに自主的に動くポイントはありますか？

**永井さん:** お子様片付けやすい場所に、片付けるものを置くところかな。一緒にやってあげたりとか、できたら褒めてあげたりとか、後は複雑にしないところ、ざっくりで。

**MC:** 大人の私でも、部屋がシンプルだとすごく楽ですよ。

**永井さん:** 片付ける場所はここ。見えているところにぼんと入れればいいのか、そのような仕組みにしてあげると、お子さんも喜んで行動します。すごく綺麗になったねということで、出来たところ見たまを褒めてあげると、やった後で「褒めて」という顔でくるので、「言わないのに出来たね」と褒めてあげます。笑顔で子育てしたいですよ。

**MC:** 永井さんご自身は3つのR、リデュース、リユース、リサイクル、色々な活動の中で、これは毎日、心がけているというのはありますか？

**永井さん:** 私は、一度家の中に入ると手放せない、物に執着してしまうところがあるので、なるべく家に入れないうところ、リデュースですね。それを心がけていますね。なので、余計なものをもらわなかったりチラシなど配っていて、以前の私だと配っている人がかわいそうと思ってもらっていたのですけれども、それを使わないのならば、最初から申し訳ないですということでもらわなかったり。後は、簡易包装とかエコバックを持ったりとかですね。そのようなことで、不要なものを家に持ち込まない。それは意識しています。

**MC:** 片付けの基本教えて頂きました。ありがとうございました。もし、頼む場合は整理収納アドバイザーというキーワードで検索したら？

**永井さん:** 整理収納アドバイザーはいっぱいおられますので、その中で整理収納アドバイザー、私、永井友子と言いますけれども、永井の永に友子の友で永友ということで、活動しておりますので。ただ、永友というと、アモーレのサッカーの長友選手

が出てくるので、「片付け永友」と入れていただきましたら出てまいります。私以外にも整理収納アドバイザーはいますので、自分にあったアドバイザーに出会えると良いですね。今日はリサイクル、リデュースで作っていただいたガチャの楽器とか、オーナメントが、残念ながら、すぐに売り切れてしまったので、12月10日の札幌会場では、是非、皆様に参加していただきたいです。家にあるものをお持ちになり、また、クイズラリーでガチャガチャできますから。クリスマスの日にも近いですので、楽しんでいただきたいですね。

**MC:** 今日は、私の一番の発見は片付けを要る、要らないではなく使っているか、使っていないかで分けるというのが大きなポイントでした。それを行動に移せるように、今日じゃなくてちょっと余裕を持たせて1週間以内に行動におこせるように。今でしょ！年末に向けて頑張りますので。整理収納アドバイザーの永井友子さんでした。永友さんでした。会場内の終了の時間5時までおられますので、ちょっとアドバイスを受けた方がいいんじゃないでしょうか。是非、永井さん、後もう一方いらっしやいますので、声をかけていただければ。素敵な映画もご紹介いただきました「365日のシンプルライフ」気になった方、是非レンタルビデオなども借りてみてはいかがでしょうか。ありがとうございました。皆様、本日は、平成28年度3R推進北海道大会にお越し頂きまして、誠にありがとうございました。会場内たくさんの方にお越しいただいて、色々ワークショップの数が終了しているものはあるのですが、会場内のクイズラリー行っております、パネルで三つのR、リデュース、リユース、リサイクル学んでみませんか？簡単なクイズとなっております。パネルをご覧いただければ進めますので、是非、皆様会場内のクイズラリーにも、どうぞご参加下さい。そして、この後なのですが、4時30分からもステージイベントをご用意させて頂いて





## ステージアトラクション③

浅沼 修 氏

(コーディネーター:高嶋 伴子氏)



MC:ありがとうございました。浅沼修さんでした。小樽のFMラジオでもパーソナリティーをされているということで、でもこのウイングベイ小樽では初めてなのですね。

浅沼さん:初めてです。

MC:イルミネーションも綺麗な時期になってきました。この小樽や皆さんの住んでいる街を綺麗にするために、今日は3Rのイベントなのですが、浅沼さん自身が今日から心がけていこうかなと思ったことはありますか？

浅沼さん:結局、物を大切にすることですよね。物を大切にすると、心を大切にしているような気がしてきますよね。それが、例えば再生することとは、疎遠になった友達、それからあんまり会ってなかった兄弟、それが再生されていくとそれは、もう一度また新しく生きるという事ではないかなと思います。

MC:私達の生活の中でゴミもそうですけど、そのような心の中の部分もつながっていきそうで温かくなりますよね。

浅沼さん:また、来年になるのですが、コンサートしていきたいと思います。「時計台のある街」も検索していただくと出てきますので。

MC:今日は、素敵な歌声聞かせていただきました。ありがとうございました。皆様、本日の3R 推進北海道大会なのですが、様々な生活の中での3R、皆様にこのイベントで気づきやきっかけをこの中で見つけていただきました。今、浅沼さんがおっしゃったように、人間関係の3R、再生というのも大事なのかもしれませんね。



**MC:** 皆様、今日は朝から皆様にお楽しみいただきました、平成28年度3R推進北海道大会「さあ、しよう3Rを意識した生活!」、まもなく5時をもちまして、すべてのプログラムを終了とさせていただきます。最後に閉会のご挨拶といたしまして、環境省北海道地方環境事務所課長 遊佐 秀憲よりご挨拶をさせていただきます。お願いいたします。

**遊佐課長:** 浅沼さんの感動的な歌の後で挨拶するのは、難しいのですけれども、一言、挨拶の方を申し上げたいと思います。本日は、3R推進北海道大会を皆様方のお力で盛り立てていただきまして、ありがとうございます。北海道地方環境事務所といたしまして、一言お礼を申し上げたいと思います。本日は、「さあ、しよう3Rを意識した生活!」をテーマにして、一般の方々を対象とした3Rの普及啓発活動で開催いたしました。そこで私が今回気づいた部分をお話しますと、講師の先生三人の方に、本間先生の流木アート、田丸先生の暮らしの歳時記のような風呂敷の包み方、そして、ものを大事にするというお話を伺いました。そして、永井先生からは、永井塾というような感じの整理術、非常に感動しました。その合間、合間でギターの演奏があって、まさに心の方を癒しながらも、これからの活動を盛り上げていくというようなことで、非常に感銘を受けたところです。浅沼さんの時計台のある街、この曲は故郷をテーマにした曲なので、非常に感動しています。ちょっと雨の話をするすと、雨は山の木々や地面に浸透いたしまして、そして、地下水になるまで三十年かかるそうです。私達は、そのような資源を大切にしないといけない。そして、その資源の大切さというのは、この3Rから生まれるということに改めてわかったところです。それで浅沼さんに一言お願いと言うか、この歌は本人が十七歳の時に作った曲だそうです。今、この札幌の街で同じような情景がもしあるとしたら、それをちょっと詩に書いて歌ってもらおう。まさに3R、資源循環というのは、大切に作る、恋人を大切に作る、家族を大切に作る、そのような部分が詰まっていると思っております。更なる皆さま方の活動を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

**MC:** 閉会のご挨拶をさせていただきました。ありがとうございました。平成28年度3R推進北海道大会、ウイングベイ小樽のこの場所を借りて開催させていただきました。まもなく5時をもちまして終了とさせていただきます。会場内は、たくさんの皆様に3Rのクイズラリーにご参加いただきました。皆様がアンケートに参加される時に再利用、リサイクル、3Rと聞くと難しいなという顔をしているのですが、クイズラリーで進んで行くと、実は身近なことで意識せずに皆様が参加していることでもあるのですよね。今日、皆様がイベントで集まって、勉強して得た気付きを生活に取り入れていただければと思います。そして、この3R推進北海道大会なのですが、今日はウイングベイ小樽で開催いたしました。11月23日水曜日の祝日には、とかちプラザ帯広でも開催いたします。また、札幌でも12月10日イオンモール札幌発寒での開催となります。どちらもワークショップやカプセルでガチャ、カプセルでオーナメントなどを行います。是非、皆様この機会に札幌会場や帯広会場にも足をお運びくださいませ。また、大人気のばくりっこコーナーの開催となっております。この会場で家にある不用品を持って来られなかったという方、是非、帯広会場または12月10日の札幌会場にご自宅の不用品を持って、この会場でばくりっこをして素敵な商品または製品をゲットして下さい。皆様、本日は3R推進北海道大会にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。まもなく5時をもちまして終了とさせていただきます。まだパネルかざってありますね。是非、お時間ありましたら、どうぞご覧くださいませ。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。







平成29年 3月

北海道地方環境事務所 環境対策課

〒060-0808

札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎

TEL 011-299-1952

FAX 011-736-1234

委託機関 (株)セレスポ 札幌支店

〒003-0809

札幌市白石区菊水9条3丁目5-13

TEL 011-821-1810

FAX 011-821-1811

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料「Aランク」のみを用いて作製しています。